明治四十三年三月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四十四號

第三種郵便物認可 明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可 明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第二百四拾四號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

質疑

雜報

西洋雜俎

大日本婦人衛生會記事

大日本婦人衛生會

總會及懇親會豫告

本會の總會及び懇親會は來る四月下旬を以て開催致すべき筈に候間豫め御了承相成度此段會員各位に稟告す。

追て會場及び時日等は決定の上御報可申上候。

四月例會は例に依りて休會致候事。

明治四十三年二月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康におらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑しく衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして特に吾等婦人のしつばら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話をなし互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居、等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は本人親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會、評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　本會規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概况を報告すべし●第廿二條　本會々計の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要す●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし開後に員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　[illegible]ことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は毎會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　本會々員又は本會々員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

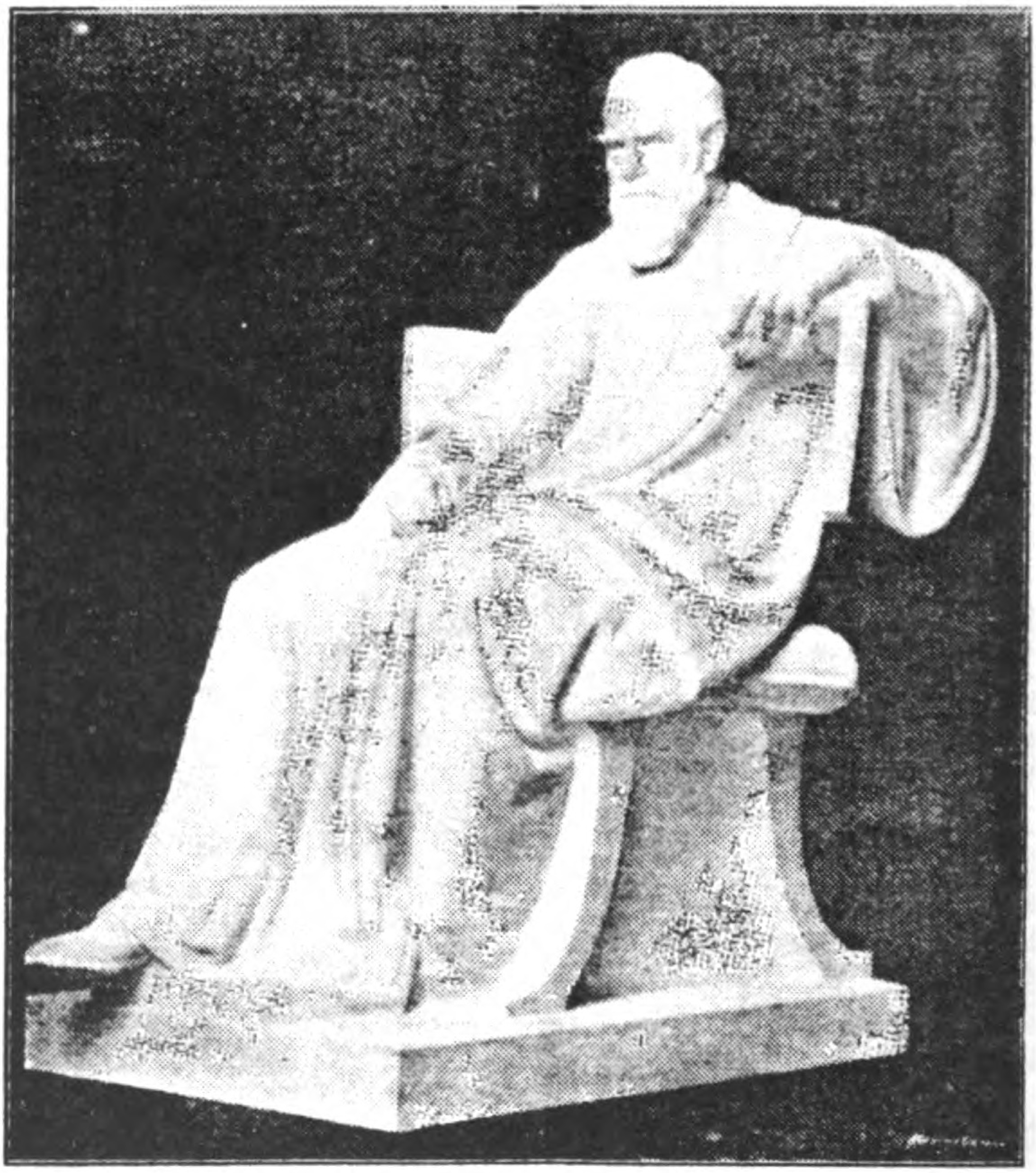
幹事 鳩山春子
同 羽田三精子
同 岡田德子
同 高木錄子
同 山本多穗子
同 松平芳子
同 三浦教子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 四升子
同 土肥多越子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
評議員 田村きよ子
同 男爵夫人 南部殿子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員

（いろは順）

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 石川千代松君
醫學士 石原久君
醫學士 石原喜久太郎君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
ドクトル 伊澤信平君
醫學博士 伊東祐彥君
色川閑士君
岩井禎三君
藥學博士 石津利作君
醫學士 磐瀨雄一君
長谷川泰君
法學博士 鳩山和夫君
萩原鋼四郎君
醫學博士 林春雄君
原胤昭君
醫學士 楠本左武郎君
醫學博士 濱田玄達君
男爵 濱尾新君
醫學博士 芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル 西山信光君
本田增次郎君
醫學士 鳥居恪君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大野豐太君
醫學士 大西秀治君
子爵 小笠原長生君
ドクトル 小此木信六郎君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士 緒方正規君
醫學博士 大澤岳太郎君
醫學士 渡邊房吉君
醫學博士 加藤照麿君
法學博士 男爵 加藤弘之君
醫學士 河野衛君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 賀古鶴所君
醫學士 樫田龜一郎君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 甲野棨君
醫學士 米山彥郎君
橫井忠國君
醫學博士 高橋順太郎君
男爵 高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士 高田畊安君
ドクトル 高山紀齋君
藥學博士 田原良純君
醫學博士 田代義德君
醫學士 田村光顯君
醫學士 田村化三郎君
醫學士 竹中成憲君
藥學博士 丹波敬三君
法學博士 高木豐三君
醫博、男爵 高木兼寬君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 土田卯三郎君
男爵 辻新次君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學博士 長與稱吉君
藥學博士 長井長義君
男爵 南部甕男君
醫學博士 能勢靜太君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 栗本庸勝君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 呉秀三君
醫學博士 山田鐵造君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
ドクトル 山上兼輔君
ドクトル 松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル 富士川游君
布施正顯君
男爵 後藤新平君
醫學士 古川榮君
小高眞造君
小西信八君
醫學士 寺田織尾君
醫學士 寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士 朝倉文三君
子爵 秋元興朝君
足立寬君
ドクトル 朝山義六君
醫學士 淺田決君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學博士 榊順二郎君
醫學博士 榊保三郎君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 佐藤三吉君
齋藤滿文君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐藤運雄君
醫學士 佐藤德齋君
醫學士 澤崎寬制君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 木下正中君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學博士 木村德衞君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學士 北村精造君
醫學博士 北川乙治郎君
ドクトル 菊池碩一君
醫學博士 三輪信太郎君
醫學博士 宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士 箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三浦謹之助君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三浦守治君
島田三郎君
ドクトル 志村誠慶君
醫學博士 島村俊一君
ドクトル 日高昂君
醫學博士 弘田長君
伯爵 土方久元君
醫學士 百瀨玄溪君
醫學士 森田正馬君
文學醫學博士 森林太郎君
醫學士 澄川德君
ドクトル 須田卓樹君



ペッテンコーフェル先生像

講演

產科學上より見たる人口の話

醫學士　相馬又二郎

本日は大日本婦人衛生會の御方より、私にも此所へ出て、何か御話したらどうかと云ふ御勸がございまして、本日玆に御話申す次第でございます。

私の題は『產科學上より見たる人口の御話』と云ふのであります。

一體人口の殖えて行くのは、世界―國家の上に於きまして宜しいことであるか、或は惡い事であるのでせうか、以前歐洲にて、人口と云ふものは盛んに殖さなければ、一國の隆盛を計ることは出來ない、どうしても人口と云ふものは、盛んに殖さなければならないと云ふことを申して居りました時代がありましたが、英國のマルサスと云ふ人、此人は、非常に其當時人口に就て研究を積まれて居つた人でしたが其人の言はれまするのに、人口がさう澤山に殖えて行つたならば、此限りある世界に、若し人間が無限に殖えて往つたならば、遂には食ふ物が無くなる。人間は第一喰べたり衣服を著たりしなければならない、衣食しなければならないものが、さう澤山に殖えて來ると、土地には限りがあるから、遂には生活に必要なる食物、衣類等を供給することが出來なくなつて來る。さうすると人間は、御互に遂には饑死しなければならぬやうになつて來る。尙ほ其當時マルサスと云ふ人の計算に依りまするとゝ人口と云ふものは、二十五年に倍になる、さうすると、それから計算して行きますと、割合に短い未來の中に、世界の人口が非常に殖えて、人間は各自に饑死しなけ

ればならぬ、であるから此人口を無暗に殖やさうと云ふやうな考を有つのは、世界人類のために非常に危險なる說であると云ふことを言つたのであります。

其當時この說が、歐羅巴に餘程勢力を有つて、成程それはさうかも知れないと云ふので、一時繁殖の方のことを八ケ間敷言つた人は、其說のために一時挫かれた。

ところが、其後段々研究して見ますると、人間と云ふものは、さう無限に殖えるものではない。或は土地から出來るところの穀物の不作の爲めに饑饉が來るとか、或は疫病であるとか、或は戰爭があるとか其他天災と云ふやうな、人間に自然に起るところの災難と云ふものがあつて、さうマルサスの言つたやうに殖えて行くものではない、のみならず此社會と云ふものは、不景氣になるとか、或は又穀物が出來ないと云ふと、自然に妙に人口が殖えないと云ふやうな現象があるのであつて、以前マルサスの言つた說と云ふものは、今日では、信ずる人は殆ど無いやうになつたのであります。

そも〳〵一國が强いと云ふのは、詰るところ、今日では、一國が他の國と戰爭をしたならば、勝つと云ふことである。勝つ國は詰り强いのである。で此戰爭に勝つには、詰るところ人口が多くなければならぬ。人口が小ければ、從て兵士が少いから、戰爭しても負けます。故に今日では、此人口と云ふものは國の强兵を計るためには、多くなければならぬ。兵のみに就て云ふのではない、其外の事でも、一國の隆盛、發達を計るのは、少數の人では出來ぬのである。であるから、人口は殖やさなければならぬと私は思ふのであります。

私共の考へまするのに、日本では、北海道であるとか、或は臺灣、或は樺太、其外朝鮮、滿洲地方に行きますと、日本人の住むべき土地は澤山あるのであつて、若し例之ば朝鮮、滿洲邊に日本人が住はなかつたならば、滿洲などでは、日本人以外の人が其

所に住んで、さうして自然の中に是等の人が勢力を占めて、後に日本人が其所に行つて住まうと思つても、今住んで居る人を除けて、日本人が入る譯にも往きませぬから、今日に於て日本は、人口の増殖と云ふことが日本の富國強兵と云ふ事にのみならず、日本の膨大と云ふ事に非常に必要ぢやないかと思ふのであります。

此所に歐羅巴、米國及び日本の人口の表を出して置きましたが（表略）、日本は幸にして人口が割合に多い。一番歐羅巴で多いのは、露西亞であります。それから亞米利加に行つて合衆國、獨逸、それから日本と云ふやうに順次になつて居ります。茲に擧げました表は調査した年が同じでないから、詳しいことは分りませぬが、日本が千九百三年には、四千六百七十何萬と云ふ數であつたのが、此頃の調に依りますると、五千萬人以上になつて居るさうであります。

それから佛蘭西と獨逸もこれを人口の上から見ますと面白い事があります。佛蘭西と獨逸は千八百七十年乃至七十一年に戰爭をやつた、國力の競爭をやつた。其當時佛蘭西の人口と云ふものは三千幾百萬、四千萬に充たぬ數であつた、獨逸は四千萬を少し超えて居つたのであります。此の戰爭は、色々な原因よりして佛蘭西の大敗となりました。其後佛蘭西の人は、非常なる敵愾心を起して、是非復讐をしなければならぬと決心をしまして、之に勉めたのであります。兩國の競爭は、今も尚止んで居りません。翻へつて十九世紀の初め頃を見ますと、佛蘭西は二千六七百萬ありましたが、獨逸の方は二千四五百萬で佛蘭西より人口數が少數でありました。ところが前申しました通り、千八百七十年から七十一年の戰爭頃となりましては、獨逸の方が數が增して來て、今日では、獨逸の人口は六千萬を超えて居るのに、佛蘭西は四千萬位で、其差は實に二千萬以上になつて居ります。實に佛蘭西の人口は非常に殖え方が少いそれに反して獨逸の人口の殖に方と云ふものは、佛

蘭西に比して非常なものであるのです。獨逸の人口千人に就ての殖え方を申しますれば、十四五人になつて居りますが、佛蘭西の方では非常に少い、人口千人に就て、僅か一人にも足りません、殆ど比較にならない程少い。前述べし如く今日獨逸が六千萬人以上あるのにかゝはらず、佛蘭西の人口は四千萬位しかありませぬ、故に人口から論じましても、今日では、佛蘭西は前申せし復讐は出來そうもないのであります。

私が彼地に居る間にも、新聞にも時々佛國人口繁殖力の尠いのを矯正するのには、どうしたら宜いかと云ふやうなことが書いてありました。或は佛蘭西では、兵隊を他國から傭つて來たら宜いだらうとか、或は人口を殖やすことを勸めるために、例之へば、夫婦の間に出來る小供が二人以上あつたならば斯う云ふ特典を與へる、或は三人の者にはこれだけ四人の者には是だけの特典を與へると云ふやうな議論が熾んでしたが、詰るところは、どうかして佛蘭西の人口を殖やしたいと云ふことなのです。

今日は獨逸が非常に強くなつて、英國と競爭するやうになつて來ました。兎に角、獨逸がさう云ふ風に隆盛に向つて行くのは、先程御話した人口の上からも、餘程關係があることであらうと思ひます。

それならば人口はどうしたら殖えるかと云ふに、それは死亡する數を減らして、分娩の數を殖すと云ふことより外には、方法は無いのであります。此方にあります表(略)は、獨逸の―丁度一昨年でしたか、伯林に萬國衞生學會がありまあして、其當時に矢張統計學會もありまして、其際に私の得た材料に依つた表であります。獨逸では、五年毎に人口の調査をやつて居るやうでありますから、丁度來年邊り又人口調査をやりませう。それが分ると一層新らしいものが出來やうと思ひますが、今では是れが一番新らしい。此調査に依りますると、此千九百五年では、出產總數が二百萬人以上で、其中死亡する數が百二十何萬、さうして其出產と死亡との差が卽ち人口の殖

える數でありますが、それが丁度千九百五年では、七十九萬餘ですから、獨逸では毎年七十何萬、殆ど八十萬乃至それ以上が殖えて行くのであります。日本はどうなつて居るかと言へば、此表(附解)は三十二年から三十九年迄の調査に依つて書いたのでありますが、此所に生産と書いてあります、生産とは生きて生れた小兒の數であります。此獨逸の方の出産の中には、生産もあるが、死産も入つて居るのです。日本に於ける生産數は、三十八年即ち千九百五年に於ては百四十何萬と云ふ數であります、此百四十何萬と云ふのが生きた小兒の生れた數、本當に殖えて行く數であります。

此上に括弧してある百五十九萬幾らと云ふのは、死んだ小兒も一緒に數へた數であります。日本にも隨分と澤山の小兒が生れる、さうして一方に於きましては死んで行くのでございますが、例へば千九百五年にしまするど、死亡數が百萬以上あります。三十七年八年に、割合に其數が多くなつて居りまするのは、是は一には戰爭があつた爲めでもあるのであります。さうすると、生れるのと死亡するのとの差と云ふものは、三十八年に於ては四十萬餘りで、是れ丈けの人間が日本では殖えましたが、獨逸の八十萬に比べると、其差は餘程甚しい。此所に現した五箇年の統計で、獨逸は生れた數が合計約一千萬人、死亡が六百萬近くで、日本は五年の間に合計七百三十八萬人餘生産があつて、四百八十萬餘死亡する、差引日本では五ヶ年間に二百五十萬餘位宛殖えて行て居ります。

尙ほ茲に非常に注意を惹きまするのは、獨逸では死産と云ふものが極く僅かですが、日本は死産が比較的非常に多い。日本では七十五萬以上の死産がある、獨逸の方は生れる數が多いから、それに比較して死産も從て多くて然るべきであるべきものが、三十七萬餘しかない。是は餘程注意しなければならぬことだらうと思ひます。

それから人口千人に對する割合を、假りに獨逸と日

本とを比較しますと、日本では三十二年に於て、出產と死亡の差十人であります。人口千人に對して三十一人生れて行きます、死亡數が二十一人で其差、即ち實際に殖えて行く數は、千人に就き十人位であります。然るに獨逸の方は、出產數と死亡數の千人に對しての差と云ふものは、十五・五と云ふことになつて居ります。さうすると出產と死亡との差の實際の人口の殖えて行く割合は、獨逸の方が多くなつて居ります。それから歐羅巴で、人口千人に付て殖えて行く割合を調べて見ますと、佛蘭西は、先程申した通り一人に足らないので、非常に少い。一體歐羅巴に於ける出產の數と云ふものは、假りに今より十年以前と今日とはどうであるかと言へば、それは段段減つて來るのであります。此原因に對して、種々な研究がありますが、其多くの原因となるべきものは、衣食住の困難、即ち生活の困難なる爲めに、獨身者が多くなる、歐羅巴には獨身者が隨分あるやうであります。從て人口に比して分娩の數が減る。其他獨身者が多いために、種々な風紀上の惡しき事其ほか色々の原因からして分娩數が減つて來る傾向がある。其他歐羅巴では學問がいろ／＼進みますると同時に、惡い方の智慧も進みますから、避妊法、流產法なども非常に巧妙なものがあると云ふことを彼地に居る間に聞きましたが、其等の關係からか、歐羅巴の出產數は以前に比較して少くなつて來て居ります、此事は亦御婦人方なり、或は私共などが大いに考へなければならぬ點だらうと思ふのであります。さう云ふことの最も行はれて居るのは、佛蘭西であるやうに思はれます。獨逸なども矢張每年每年分娩數が減つて來るやうに思はれます。日本では未ださう云ふことはあまり多くある事はきゝません、是は日本のために大いに祝すべきことでありますが、かゝる事が輸入せられぬ事を望みます。それから先に御話したやうに、死產が日本には非常に多い。今之れをプロセントで申しますと、獨逸では、千八百九十六年から千九百五年迄百の御產に對して

其中死產が三・一或は三、大抵毎年平均して三である、ところが日本では、此出產百に對して死產の數が三十四年に於ては九・三になつて居ります。大抵毎年九以上になつて居ります。獨逸と比較して殆ど三倍です。全體の數で言へば千九百五年、卽ち三十八年を見ますと、日本では十四萬二千餘、是が一年の間の死產數であります、ところが獨逸の方を申しますれば、死產數は同年に於て六萬一千餘です。千九百一年より五年まで五ケ年間の日本の死產數は、合計七十五萬餘にして、獨逸にては三十七萬餘に過ぎないのです。日本に於て死產數のかく非常に多いのは、前申通り大に注意を要する點ではありませんか。

日本に死產數の多いのには、いろ〳〵な原因もありませう、例へば妊婦又は胎兒の病氣のために、死んだ小兒が生れると云ふ事もありますが、其他の重なる原因としては、日本では御產と云ふものを等閑にするからではなからうかと私共は考へるのであります。昔から日本はお產と云ふものに對しては、餘り注意を拂はないやうに思れます。能く田舍などに行くと、お產に就ては家内の者も、まるで牛か馬にでも御產をさせるやうに考へて、お產なら何所か奥の方の暗き隅でさせると云ふやうなことで、一向お產には重きを置かない。さう云ふ風に、日本一般の人が、お產を等閑にすると云ふことが一ツ、其外お產に關係する產婆及產に關係する醫者の知識が、日本では未だ十分に發達して居ない、例へば小兒の生れる時分に產婆なり、醫者なりが注意すれば、壯健に生るべきものが注意しないために、折角生れて來る小兒をムザ〳〵と殺す事があります。或は手術をすれば、生きた小兒の生れべきところを、手術もしないと云ふやうなことで殺すことがあります。斯う云ふやうな原因に依つて、日本には死產の數が多いのではないかと思ふのであります。此點は、特に此方にお出でになつて居る役員及會員のお方は、日本に於ける有力なお方で、さう云ふお方から段々多

くの人に御話下すつたら、其効力と云ふものは、單に一家の幸不幸と云ふのみならず、前申上げました通り、延ては國家にも大關係のあることで、非常なる利益であらうと思ふのであります。

それから最後に御話したい事は、人の死亡しますのは、分娩の時に嬰兒が死亡する外では、一歳以下の小兒が一番多いので、此所にあります表(略)、此點いのは、是は獨逸の統計、即ち千九百一年から千九百四年迄の死亡數を平均して、毎年死亡する人間はどう云ふ年齢の者に多いかと言ふ事を示したのです。零歳から一歳迄に四十萬人近くの赤ん坊が死にます。それから一歳から五歳、五歳から八歳と順に現しましたが、零歳から一年經つ間に死ぬる數が非常に多い。先程御話した、生れる間に死する數を、若し表に現はすことが出來たら、一層是より多いことでせう。生れてから一年迄の間に、是だけなのを見ましても、如何に一歳以下の小兒が澤山死ぬかと云ふことが御分りになるだらうと思ひます。

日本はどうかと言ふと、是は明治三十七年、私の調査の足らないためでもありませうが、餘り詳しいことが能く分つて居りませぬが、此生れ立から滿一ケ年、一ケ年から五ケ年の間のを、假りに表に現しましたが、日本では赤ん坊の死ぬる數が割合に少い。獨逸に比較して少いのであります。何故日本に少いかと言へば、其原因は、矢張日本ではお母さんが、小兒に身分の乳を呑しますからかと思れます、そころが獨逸邊りでは、殊に勞働者などは、阿母さんが小兒に乳を呑ますべき時間がなかつたり、いろんな關係のために牛乳を呑ませる、食物に對して小兒は鋭敏ですから、其ためにかく死亡數が多いのだらうと思ひます。

それから一歳から五歳は、日本は獨逸より分娩が少いのに拘らず、割合に死亡が多い。尚ほ假りに明治三十七年における表を見ても、生れてから滿一ケ月に至る迄の間、即ち倘母の産褥中にある間に死亡する嬰兒の數は十萬六千餘を算します。どうしても生

れたての小兒が餘計死にます。是は矢張御婦人の御方、其外產婆、或はお產に關係ある人は、大いに注意しなければならぬことでは無からうかと思ふのであります。

で詰り日本では、今御話する通り、死產が多い。それから生れて死ぬる數も中々多いのでありますから人口の繁殖と云ふ點に於きましては、非常に注意を要する點であらうと思ふのでございます。

叢談

ペッテンコーフエル先生（口繪參照）

苟も衞生の何たるを解する人にして、ペッテンコーフエルの名を知らぬ人はない、現今の衞生學は實に此人に依つてその基礎を築かれたのである、然れば野蠻國は知らず、少しく文明の進步せる國に在りては、何人も直接間接に此人の恩を蒙つて居る、況や吾々衞生の事を念とするものは、決して此の偉人、此の衞生學の鼻祖を忘れてはならぬ、口繪に揭げてある像は、昨年先生の生國獨逸國ミンヘンに建てられたものであるが、其際盛大なる除幕式が擧行せられ、教授グルーバー氏の演說があつた、その演說に由て略ぼ先生の如何なる人であつたかゞ窺はれる、依て今その大體をかいつまむで茲に御紹介すること〻した次第である。

殿下！　貴顯諸賓！

種族の成立には、これに與かる人その數幾百萬而かも人道の開發は只少數の人にこれ由ると。今日除幕せらる〻此の記念碑の其人も、實にこの少數の人に屬するのである。私共は、今また、彼の生きては此市の誇であり、獨逸全國の誇であつた所のマックス、フォン、ペッテンコーフエル先生の活々し

た姿を見る譯であるが、この式典に當つて、吾々は渠が彼の樣な學者と成つたその跡方を尋ねて見やうと思ふ。

ペッテンコーフエルの生立は、その人格、その事業の非凡なるが如く又非凡なるものがある。大體これを分けて略ぼ二期に區別することが出來る。

この大衞生學者たるペッテンコーフエルの先祖に、功績ある工藝家のペッテンコーフエルがあつたと云ふことは、餘り人の知らぬ所であるが、兎に角ペッテンコーフエルは、貧しき農夫の子と生れ、つぶさに辛苦艱難を嘗め盡したのである、この間に於ても天性の然らしむる所、少しでも暇さへあれば一心不亂に化學を研究した、醫學を研究しなければならぬやうになつても、何よりも好きなものは此の化學であつて、丸で戀人に對するやうに、機會さへあれば如何なる時でも化學を研究する途を求めたのである。

ペッテンコーフエルが高等學校を卒業してよりミンヘン大學の教授に任命さるる迄の十年間、次々に試みた所の事といふものは、實に冒險とでも云ふべきものである。先づ化學、鑛物學の學生より藥劑師の修業者兼助手、俳優、醫科大學生、免許藥劑師兼醫師、藥物、外科、産科學ドクトル、それから再びシエーレルに就き、リービヒに從つて化學研究生となり、醫學研究所の分析家となり、造幣局の役人となり、遂に大學の醫化學教授となつたのである。これが若し、彼の如く倦まず撓まず、何をやつても忽ち功績を顯はして、人の上に出づる、その精力と天才がなかつたならば、殆ど輕擧妄動とも云はるべき振舞である。然し始より最も實用的の事、凡て世の爲になる事に、その精神と才能を向けたのであつて、工藝の方面に於ても實に種々樣々なる功績を顯はして居る。先づ造幣局の役人に擧げられては古プラパント銀貨の中に黄金と白金とを含んで居ることを見出して、大にその價値を高め、古代硝子物のヘマチーノンを製り出して大にルードヰヒ王の御感に預つ

た時などは、その同僚は何れもこの不思議な新ドクトルに驚嘆した、これに次で尚ほアペンツリーン、アストラリートといふ二種の貴重なる硝子を發明した。セメントに就ての研究では、その製造法に根本的の改良を施して、今日も尚ほその餘澤を受けて居る。又木から燈用瓦斯を製する法を發明して、其業を興さしめ、これが十年間も繁昌した。又今日盛に製り出されるリービヒ肉越幾斯の製造に應用されて居る方法も矢張ペッテンコーフェルが始めたのである。その他ペッテンコーフェルの工藝家として偉らかつたことを證明するものが澤山あるが、茲にはも一つだけ擧げて滿足することにする。これは已にその生涯の第二期に入るが、それは油繪複製法の發明で、乃ちこれに依て古代美術の重寶が餘程新たに獲られたのである。

四十代の終より五十代の初めにかけては、ペッテンコーフェルの精神は全く工藝に熱中されて居たことは、マックス第二世に呈した所の工藝學校建設案で以て分かるが、此の建設案は實に時代を超越した卓論であつて、その中には學問を實際に應用すべきこと、それには物理、化學の如何に必要なるものであるかを盛に說て居る。尤も此の建議は實行さるゝに至らなかつたけれども、この計劃書を見れば、ペッテンコーフェルの全體の思想の方向が分かり、その後二三年にして、これが事實上に現はれて來たことが分かるのである。尚ほこれが機會となつて、獨逸自然科學界の明星たるリービヒ氏が遂にギーセンから移つてミンヘンの人となつた。ペッテンコーフェルは啻に實用上の學問のみならず、學理の方に於ても非凡の頭腦を持つて居て、原素に關する明論がある。その後間もなく醫化學の正教授に擧げられたがその頃は未だ、醫學に大功績を顯さうとも思はれなかつた。

五十歲の頃よりペッテンコーフェルの學術的事業が一轉して來て、漸く健康と疾病の問題に向つて來たのであるが、兎に角ペッテンコーフェルは工藝家と

して非常に信用を得た。それで何事でも人が工夫して、工夫の盡きた時には必ずペッテンコーフエルに相談をすると云ふ有樣であつた。先づ千八百五十一年には、ミンヘン王室の熱氣煖室法の不良な原因を取調べることを命ぜられ、千八百五十四年には、バイエルンに劇烈を極めた虎列剌流行の原因を明かにせむことを希望せられ、室內空氣に就て研究し、英佛兩國に研究的旅行をして常時の衞生的設備に貢しミンヘン產院の一種獨特の換氣法を創設し、漸次公衆衞生の方面に研究が向つて來た。而して物質新陳代謝と榮養に關するリービヒの新研究を聽いて大に興味を感じその研究に與つて忽ちリービヒの最も信賴する友人とせられ、カール、フオイトも亦その蛋白質代謝の研究より人體と外界の間に於ける瓦斯交換の問題に亙り、呼吸器の構造について矢張この天才的工藝家の助力を求たのである。而してペッテンコーフエルが前に研究した換氣法と、マックス第二世の恩德に賴つて彼の有名な、大膽にして且つ精密に工夫された器械が出來て、始めて普通の狀況に於て、人體の全物質交換を測定することが出來るやうになつたのである。

斯樣な譯で、四方八方よりペッテンコーフエルを衞生學の領分に引入れるやうになつて來たので、これ迄十年間も切々に研究してあつた事が、凡て綜合されるやうになり、遂にその自然科學の智識と技術一切を擧げて衞生に活用することゝなつたのである。而して人間一切の生活狀態を系統的に研究して、從來只經驗にのみ依て居つた衞生政策に非常の貢獻をしたのである。斯樣にして今日の衞生學の學術としての研究方針が已に渠の頭の中に成立て居つた。而して此の方法を以て如何なる幸福を世中に來すことが出來るかと云ふ考は終生渠を獎勵せしめたので、常にこれを渴望して居つたのである、千八百四十八年に渠が言ふた言葉に由てもこれが分かる『眞に學術に身を委ぬる者は、常に先づ眞理の爲に骨を折るけれども誰か一國の人民として、はた一家の主人或

は家族として、その思考を妨げらるゝことなく哲學者となりますことが出來やうか、私の經驗と私の勉強した工夫の結果を何に應用しやうかと云ふに、暫く此の地上に共棲する人々の爲に、その心を樂ましめ、その惱を除き、これらの人々より受けた鴻恩に酬ひやうと思ふまでのことである。人として學者たるものは、實に又この義務がある、若し其他の事を考へたり爲たりするならば、これは怯懦な人或は無情漢と謂ふべきである』と云ふて居る。

かくて渠は、その天才を以て、骨も折れず又豐かに報酬を得られる、その好きな工藝を棄てゝ、六十歳の初より非常な精力を以て、新に困難な面倒な問題に向て全力を注いだのである。而してその弟子と共に研究した事と云ふものは、煖室法、換氣法から、照光法、衣服、土地、給水法、頽廢物排除法、又河水の汚染、特に流行病の傳播經路等殆どあらゆる衞生學の範圍に亙つて研究したのである。

その學問上の功績といふものは實に非常なもので、已に千八百六十四年には三個の地方大學に衞生學の講座が設けらるゝに至つた、これ實にバイエルンの世界に向て誇とする所である。

今玆でその學術上の功績を一々述ぶることは出來ないが、兎に角その學問の方針を見れば、物理、化學を拔目なく衞生の研究を應用するのが特長であつた。

實地上の衞生については、如何に行ひ如何に行はんと欲したかと云ふに、先づ凡て一々有害なことの現はれた時には、適時にこれを發見して、これを除くやうに、絕えず各人自ら出來得るだけ有害なことの起るのを防禦しなければならぬと云ふ大原則に含まれて居る。『藁屋のある所で、火事の起るを禦がうと云ふは無謀な話である。家屋は火のつかぬやうになつて居らなければならぬ』とは常に渠の言ふた所である。それで窒扶斯を豫防するにも隔離法や消毒法を用ひず、偏に清潔法、給水法、排水法に注意をしたものである。

學理上の事でも實地上の事でも、その眼のつけ方が實に廣く大きく、驚くべき高い立場から、人間の生存條件の全體を見渡して居つた。而して國民の健康と衛生は、その繁榮文化と如何に密接な關係を持つて居るか、又政治と社會の狀勢も、その習慣風俗、吾々全體の道德的狀態も大に渠の眼を止めた所であつた。

渠は始より、衛生學の問題は只有害な事を吾々より遠ざけることにあると云ふ考を排斥して、更に人間の抵抗力、能力、實行力を強むると云ふ高い目的を示し、一層完全なる人類はこれに由て起るべしと云ふた。渠は又衛生を以て政治に比して、凡て人民が協力せなければ、とても其國の繁榮を望むことが出來ないと同じく、衛生に於ても各人の健康は他人の健康と密接な關係を持つて居つて、健康を害する一切のものを防ぐには、矢張共同して行はなければならぬ、若し大に衛生の進步を望むならば、一般の生活條件を高めなければならぬ、これは全く政治と同樣である。

かくペッテンコーフェルは廣大なる計劃を立てゝ衛生學を有益な學問とし、色々と新しい問題を世の中に提出して社會の改良に資したのである。これは單に學校で敎へたのみでない、口に筆に倦むことを知らず、この新學問の普及に務めたのである、それでリービヒと共に獨逸文學上に於ける最も大なる、最も國民的の、通俗科學的文章家と稱せらるゝのである。

十九世紀の後半期は、實に自然科學發達の全盛期であつたが、ペッテンコーフェルの如く此の平和の世界の擴張に與つて力あるものも少いのである。

然れば、このミンヘン感謝會が、渠の記念像の爲にこの名譽の場合を撰んだのは誠に當然のことで、ペッテンコーフェルが當時感歎欽仰せし不世出の天才たるユスッース、フォン、リービヒの像と相對して居る。

諸君！　諸君の中で幸にペッテンコーフェルを見た

ことのある方々は、惜哉この細工人も已に亡人となつたが、如何に此像が眞を寫して居るかを觀て悦ばるゝであらう。併ながら如何なる彫像家の手によるもペッチンコーフエルの人格より流露する所の非凡なる感化と魔術とを表はすことは出來ない。實にこの魔術は眼で視ることの出來ない他の世界を眺めた所のその億測すべからざる妖魔の如き眼光の中にあるのである。その眼光こそ渠が精神の本色を現はして居つたのである。

ペッテンコーフエルは崇嚴なる永遠の鐘の響を聽き得べき幸福の人である。嘗ては閑寂を渇望したることもありしが、今は世の雜鬧と、生存競爭の活動中に、常にその美妙の音に耳を傾むくることであらう。

然しペッチンコーフエルは醉夢者ではなかつた、渠は天恩を思ふて間斷なく世を益することに勤めた、而して、その生活上の凡ての困難も、名譽も顧みず終始眞摯に、純潔に、自由の人として、遂に無慘の最後をとげるまで働いたのである。

渠は逝きぬ。然れど記念は遺れり。

渠が記念こそ我儕を幸はへ。

不妊症及其の治療

此世に子なき人の不幸はいかばかりで御座いませう家に巨萬の富を積みても、身に錦繡綾羅をつけつくしました所で、子なき夫婦の寂しさは如何で御座いませう、老ゆるに從つて寂莫の感はます／＼甚しく或は桃李花咲く春の晨、或は梧桐の葉落つる秋の夕其子なきは如何ばかり悲しいで御座いませう、殊に婦人は男子よりも其子女を得やうと思ふ慾望は甚だ强きものでありますからして、其の悲しみも又男子に數倍して居ります。

昔貝原益軒先生の顯はされた女大學に、七去といふ事を書いて居られます中に、『子なき時は去る』とあります、斯樣な倫理が世を支配して居る時代には、

子なき婦人の悲嘆は到底今の人の及ぶ所では御座いませんでしたのです、併し、子なきは必ずしも婦人のみの罪ではありません、或時は婦人の方が悪いので妊娠の出來ぬ事もありますが、或時は其の故障は却て男子の方にあります、此等の原因に就て御話する前に一寸妊娠が如何して出來るかといふ事を簡單に御話致しませう。

受胎即ち懷妊するには、男子の生殖器より分泌さるる精絲と申しますものと、婦人の生殖器中にて發育する卵子と合體して始めて、一つの胎兒となるものであります、即ち精絲は自ら運動して、子宮に達し更に其より卵巣に通ずる喇叭管と名くる通路を通りて、卵巣に向つて進みます、此時成熟した卵が卵巣を出て喇叭管內にあります時、精絲は卵子と癒合します、不妊症は此の精絲と卵子との結合が妨げられた場合に起るものであります。

若し精絲が缺乏した場合は勿論、其れが病的で運動が不活潑であるやうな時には、妊娠する事が出來ません、精絲の通路に障碍があつた時にも、卵子の發育が妨げられた時にも妊娠する事は出來ません、此等の故障を起すものは何でありませうか、之を個々に詳しく御話致しませう。

甲　男子不妊の原因

子なきを苦にして醫を訪ふものは多く婦人でありまして男子が子なき爲めに診斷を乞ふ事は極めて稀であります併し、不妊の訴がある時に、婦人ばかりを見ても原因がわからぬ事があります、然る時は其夫に何か故障がないか如何かを診察せねばなりません、即ち夫婦兩者を十分に檢査して、始めて不妊の原因を確め、又其治療を施す事が出來るのであります。

其男子の側にある原因にも種々ありまして、一二には止まりません、玆には主として女子の事を申上げやうと思つて居りますから、男子の方のは極く手短に致します。

一、先天的畸形

そは先天的に生殖器の缺乏せるもの、又は其の發育の不完全なるものがあり。或は又精絲を製造する所の睾丸の全くない人もあります、此等は何れも極めて珍らしいものであります。

二、精絲缺乏

是れより少し多いのは生殖器の發育も機能も完全でありますが、其の射出する精液には精絲の缺乏して居るものがあります、之は外觀上、男子は十分其妻を妊娠せしめ得るものと信じて居りまして、不妊の原因を全く婦人に歸して居ります、責めらるゝ婦人には大なる迷惑であります、でありますから、假令夫自身は健全であると信じて居る時でも、不妊の原因を知らうと思ふ時は男女兩方の檢査をせねばなりません。

此の精絲缺乏は如何して起るか、其原因は種々であります、或は生來の精絲缺乏もありますが、多くは種々の疾病の結果であります、最も多くあるものは黴毒でありまして、黴毒の爲め睾丸が破壞さるゝ時は、精絲を製出する源泉がなくなるのでありますから、自然精液内には精絲を有して居らなくなるのであります。又淋疾の結果であるものも少くありません、世には通俗に淋毒性睾丸炎と稱する疾病が少くありません、此れは睾丸より精絲が輸出さるゝ所の途中に、病氣を起すものでありまして、其の爲め精絲は外に出る事が出來なくなるのであります、此の種の原因に依る精絲缺乏は、如何なる治療を盡しても治癒する見込がありません。

黴毒も淋疾も初期に治療する時は不妊を起さずに濟む事が出來ますが、少し手遲れになりますれば不治の精絲缺乏を起すのであります、而して夫の淋疾は更に婦に傳染し、其の爲め婦人の子宮、喇叭管等に重い病氣を起しまして、婦人不妊の原因となります、又黴毒は婦人に傳染しては流産、墮胎の原因をなします、此二種の花柳病は實に人類蕃殖の上には甚だ恐る可き敵でありまして、其多くは男子の罪に歸すべきものであります。

三、其他の不妊の原因

陰萎といふものがあります、之は老衰、糖尿病、種種の脊髓病、腎臟病、强度の神經衰弱、過度の房事手淫等は何れも其の原因となります、中に糖尿病、脊髓病等は重い全身病でありまして、治癒する事が出來ませんが神經衰弱其他のものは治療によりて全治する事が出來ます、卽ち神經衰弱には其に相應して、海岸或は山谷へ轉地し、日常の煩雜なる生活をさけ、一方には房事を嚴禁し、臭劑の如き藥を用ゐる時は多くは數週或は數ケ月にて全治いたします。

尿道の狹くなつた時も妊娠を妨碍致します、而し之は其よりも排尿困難の爲め非常に苦しむものであります、之れも多くは淋疾の爲めに起ります。

要するに淋疾及黴毒の二つの花柳病は、男子の不妊の主なる原因となるものでありまして、共に其放蕩の結果であります、卽ち、青年期における一時の迷は、其の一生の大不幸を醸す原因となります、其れのみならず、更に之は其の妻にも傳染して、妻の健康を害し、又婦人不妊の基をなします、卽ち夫は放蕩の爲め自ら不妊の原因を作り、子なき故を以て其妻を離緣す、或は左程ならずも、家庭の平和を蹂躙し、妾を蓄へ、妾腹の子を養ふ等、の例は決して少い事ではありません、統計表に依つて見ますれば、子なき配偶の凡三分一は直接男子の罪に歸すべきものであるそうであります、まして間接の原因を探求したならば、男子の罪に歸すべきものは三分二以上にも上るでありませう、人の夫たるものは注意すべきであります。

（以下次號）

水の效用

地球上には、我等の生活に必要なもので、水や、火や、土や、空氣と數あるうちにも、水の必要は甚し最も大なるものであらう。若し水が地上に絕えるなら、我々は生活が出來ない、唯に我々丈けではない動物も、植物も、皆死滅してしまはねばなりませ

ね。

私共が生活をして居るうちに、どちらを向ひても水の力を要せぬ場合はない、そら咽喉が干いた、ヨシ來た水、それ物が汚れた、ヨシ來た水、何でも歟でも、皆水の御蔭を蒙らねばならぬ、我等の力の源をなす所のものと申しても差閊はない。御覽なさい、萎みかかつた樹でも、雨が降ると、其葉は元氣を現して參ります。暑い々々沙漠の地を過ぎり、身は旅につかれて、口を濕すものもなく、魂盡きて力亡ぶとき一掬の水によりて、元氣を恢復するが如き、或は、暑さの前に、隱れ行く所もあらず、堪え兼ねても憩ふ木陰さへなき時、冷浴の賜を得たらんには、どれ程愉快かは知れませぬ、私は今數限りもない水の效用を一々ここで述べやうとは思はぬ、只水が直接我々の身體に對しての作用の一斑を御話仕様と云ふに過ぎませぬ。

我々が活潑にそれぞれ働いて居る場合に水が必要である如く、また健康を失した時にも、水の應用を適當にすれば、其效力は驚くべきものがある。即ち醫療的に水を應用するのであります。

日に焦げて、草葉の將さに枯れんとする時に、藥を注いで、これを蘇生せしむることは、六ケ敷けれども、雨ふるか、若しくば、これに水を灌げば、其枯れなんとせし草の葉は、力裕かに蘇ることが出來ます。動物が水に餓えし時、水を與へてこれを醫するも、其理は、植物のそれと決して異りませぬ。

熱の治療にも、又傷を受けた時、炎症性の病氣等には、昔から水を應用しました。

近頃になつて、水が健康體及び病的身體に及ぼす作用を試驗せらるるやうになつた、第一にこのことに手をつけたのは、プリースニッツと云ふ人で、此人は、傷をうけた鹿が小川に行くことを觀、後に自分が生命危險なる程の傷を受けて、水の治療作用あることを經驗した人である。

それから後、次第に、種々の學者が用るやうになつた、そしてそれが段々改良せられて參りました。

水の效用には二つの方面がある、卽ち其一つは、有機性の生活物に對して、水の作用の著明なること、他の一つは、無機物の世界に向つては、水は分解の作用をなす。有機性體に向つては、それに元氣を與へ、刺戟して、活潑にいたします。水は物を溶かす性質を持つて居りますから、植物の榮養となる所のものを供給いたします。動物の榮養も亦水によることは、勿論である。

けれども水には尙ほ特別の性質がある、特別の力がある、これは、果して何でありませうか。

＊　＊　＊　＊　＊

それは我々が日々慣れて居ることで、事新らしく云ふまでもないことでありますが、溫度を種々にした水を用ひ、且種々の手段によりて、皮膚を强くすると云ふことである。

血の流れて居る管を細くしたり、又太くして、ある部分の血の流れを多くし、少くするのも、矢張り、同じ水の御蔭であります。

只にこれ計りでは無い、若し我々の身體の一部に何か障りが起つて、そして、全身の害を避けんためにこれを膿すとか、又は腫れさせる必要があると云ふやうな折にも、この水の力をかりる。

又熱を必要とする場合にも、これに反對に、熱を低くするときにも、矢張り水に手傳を賴むと云ふことになる。

熱の出たとき、水を適當に用ふれば、下熱劑のやうなものは用ひずにすむことがある。下熱劑は、熱を下げると共に時として、種々の障碍を喚び起こすことがあります。また水の利益として、斯う云ふことがある。

卽ち藥を用ひると、その藥が外に出て行くときに、通つて行く器官例へば、皮膚、肺、腎臟、腸のやうな所で、種々の害をのこして行くことがありますけれども、水は、そんなことは決してない。

また水を用ひて、胃や膀胱のやうな身體內の腔に至るまで、洗滌して、病氣の全癒を謀ることが出來ま

す。
又腸の所に出來た不潔物を除いたり、膿をとつたり傷の所に新しい肉を造つたり、又早く傷の痕になつて硬まらせてしまうやうな場合には、乾かせて置くよりも、寧ろ水を適當に應用した方が具合がよろしい。
また、水を用ひて、痛さを治し、或は血の出るのを止め、或は睡眠を助けることも、我々が常に知つて居る所であります。

（以下次號）

美容法

天下太平、國家安寧にして文明の程度も進んで參りますれば、從つて美容法といふものも廣く講せらるるのは當然のことであります。それで此の美容法に關する書物、藥品、其他種々樣々の化粧道具などが盛に廣告されて居りますが、凡て商人の手に掛かると、其間には有害なもの不良の方法でも遠慮なく吹聽されますから、これには餘程用心しなければなりません。依て茲には全く生理衞生上の立場から美容法を說いて、如何にこれを應用すべきか、何處に用ふべきか、何の爲にすべきかを示さうと思ふのであります。それで譯の分からぬ長い處方や、身體を自ら玩弄物のやうに細工する面白げな方法はありませんが、その代り何人でもこれを應用して差支ない方法を述べます。尙ほ確實に效を奏しやうと思へば醫者の精細なる指導に俟たなければなりませんが、悉く直接に應用されぬ迄も、これに依て多少得らるゝ所があるだらうと信じます。

第一、皮膚の養生

皮膚の養生に極昔から用ひられて居るもので、又最も善い藥がありますが、これは何人も御承知の水であります。
西洋人の、烈しい勞働もしない普通の人は、一週一回溫浴して、每日、特に皮膚の分泌物の分解し易い所、卽ち足、腋窩、陰部及び臀部などを水で拭けば

澤山であると申しますが、我々日本人はどうしても一週間に二三回湯に入らなければ氣持が惡いやうであります。

主に冷浴を行ふ人には、溫浴をした時に、その後で全身に脂肪を擦込むことをお勸め致します、但しこれは極少量をよく擦込む、或はそれで以て按摩するのであります。この方法は皮膚の乾燥し、弛緩して居る人に宜敷い。尙ほこの全體の脂肪を塗擦する方法は、大抵の人が冬行ふて效があるやうであります、殊に冬季皮膚が餘り乾燥して、その爲に一種異樣の搔痒を覺ゆることがありますが、これに效能があります。

その脂肪としては、カ、オ酪、ゴマ油各二十分にグリセリン十分を混和したもの、或はコールドクリーム又はウンナ氏處方のオイセリンを用ひます。

この外一般の皮膚養生法として、尙ほ二つの方法があります。それは第一空氣浴、第二は皮膚の乾拭法であります。

空氣浴と申しましても、特別の方法に依る必要もありません、先づ朝牀を離れた時に、寢衣を脫いだならば、そのまま裸でお化粧を仕てしまい、晩も同樣に衣服を脫いだ時に二三分間裸になつて居り、時には體操法を行ふやうにすれば澤山であります、但しこれも最初は注意して只暫時間皮膚に空氣の刺戟を與へるやうにし、段々それに慣れて來ましたならば後には寒中でも窓を開け放して快よくこの刺戟を受くることが出來るやうになります。斯樣に皮膚を慣しまして、其上に光線浴、日光浴をやるならば結構でありますが、これは特別な場合の外は必要がありません。以上の皮膚鞏固法が一般に行はれましたならば、種々の發疹、感冒、その他色々の神經性皮膚病も餘程稀になるだらうと思はれます。

乾拭法は先づ最も緩和な皮膚養生法であります。非常に皮膚の過敏な人、特に皮膚の弛緩して乾燥して居る老人などでは、空氣にも水にも堪えない人があります、さういふ人は先づ手の掌で以て皮膚を擦る

更に良いのは乾いた麻布(毛織物はいけませぬ)を以て朝晩少し強く全身を摩擦するのであります、弱い人はこれが善からうと思ふ。さうすれば皮膚は暫時にしてこれに慣れて參ります。健康な人は、乾拭法に兼ねて空氣浴を行ひ、尙ほ多少體操を取交へて行ふことをお勸め致しますが、極簡單な運動法としては手の掌で以て倆倒い廻るのであります。

身體皮膚の養生には、溫浴が最も適當なのでありますが、顏面には冷水でなければなりません。冷水は啻に顏の最も良い養生薬たるばかりでなく、同時に最も確實な第一等の美顏薬であります。ニノン、ド、ランスローが七十九歲で尙ほ靑年の情を動かしたと云ふのも、全く只このお蔭であると申したといふことであります。これは獨り健康の皮膚に對してばかりでなく、特別に醫師の禁ずる場合でなければ、病氣のある皮膚にも矢張冷水が最も良いのであります。ニキビ、ソバカスその他の美貌を害するものには、往々熱い湯或は湯と冷水を交互に用うることがありますが、然し適當に冷水を用うるならば、其の效能は何時までも續いて、美貌の爲には最も滿足な結果を得ることゝ思ひます。今申ましたやうに病氣に對して熱蒸汽を應用することがありまして、これには彼の吸入器で蒸汽を出して、特別に熱を保つやうな仕掛をして、それを顏に掛けるのでありますが併しこれは餘程加減もので、どうかするとその成績は、有益といはんよりも顏の爲には却て有害なことがあります。兎に角醫師の指圖なしに、色々な廣告のやうなものに依て、珍らしげな化粧法を用ひたり又マッサッジが善いといふて矢鱈にこれを行ふといふことは愼まなければなりません。

古の希臘の賢人も申しました通り、冷水は最も善きものでありますが、併し如何なる冷水でも、何れの人にも善いと云ふ譯には參りません。健康な人でその皮膚も過敏でなければ、先づ何れの水でも堪へられる、特に石鹼を用ひて洗へば堪へ得るものでありますが、併しさうゆかぬ場合には先づ第一石鹼を

取扱へて見る、それから水が餘り硬くないかといふことも考へなければならぬ、若しさういふ場合であれば、只煮沸した水或は雨水若しくは河水を用ひますか、又は一回の洗面水に一食匙程硼砂を加へて見るのであります。

凡てこれらの事をやつて見ても尚ほ堪へない時には初めて寒冷には堪へぬものと考へねばなりません、然しこれは甚だ稀な場合でありまして、多くは皮膚の軟弱な貧血の人であります。此の皮膚の軟弱と貧血と云ふものは常に一致して居るものでありますが然し顔だけは冷水に堪ぬ事はありません。これと同様に永い間病氣をした後には初の間は微溫湯を用ひるのが最も良いのであります。其他只冷水ばかりでなく、一般に何れの水で洗つても悪るい病氣が澤山あります、これらの事に就ては無論常に醫者の指圖を受ける事が必要であります。其れで病氣上りに效能が有つたと云ふので、何時迄も其方法を続ける人が有りまして、中には一ケ月も一ケ年も決して水で顔を洗はずに、油、扁桃乳、ベンチン、牛乳などばかりを用ひて居る様な人もあります、これは無論宜しくない事でありまして、後に至つて必ず悪結果を生じます。

醫者の側から申しますれば、水を禁じますのは病後一二週間で、これより永く禁ずる事はあまり無いのであります、但し水を用ひまするにも初めは、微溫湯、それから一度煮沸した室溫位の水次で冷水と云ふ様に段々と移らなければなりません。

顔を洗ひますには單に手で以て洗ふか、或は手拭、海綿、又は西洋絲瓜などを用ひます、これは水を用うるばかりでなく摩擦をするので多くの場合には有益であります。最もこれは清潔でなければなりません、然し經驗に依りますと手拭や海綿と云ふものは中々清潔にはなつて居りません、それのみならず、反對にこれらの物で不潔にされて顔に腫物などをでかす事は屢々あります、それで清潔を貴ぶならば手拭や海綿は用ひぬ方がよいのであります。絲瓜の様

なる物はいくらよい物でも粗らくつてかなり烈しく皮膚を刺戟致します。

其れで、これらの物を用ひて差支がないと致しましても、何時でも用ひたあとには清潔な水でよく滌いで乾して置いて、又用ふる樣に爲なければなりません、然し私はこれらの洗面道具はあまり結構な物とは思ひません、寧ろ手を以て清潔な水で洗ふ方がよろしからうと思ひます、但しニキビ、皮脂漏などのある樣な皮膚には絲瓜も用ひて宜しからうと思ひます。

（以下次號）

いまはの時

死に對する怖れに付ては古來哲學、或は科學上より種々に論せられて居りますが、死ぬ時には先づ痛みがなくなり意識がなくなると云ふ事は誠に都合の宜い事であります、痛みを感ずる間はこれは只病氣と云ふべきで、健康に成つて、又長生すると云ふ事もあるのであります。

痛と云ふものは通常死際に近づくに從つて減じて來て遂には大概無意識の狀態になりますが、これは眠りの度の非常に深いものと見る事ができます。

而して再び甦へる時には痛みのある場合なれば又其痛を感じて來るのであります。

ドクトルレツケ氏が犯罪人類學の書物に引いて有る樣に意識を失ふ前に意識は溷濁して來る即ち一種夢の狀態に成つて、或る病氣では有りもせぬ物が見へて譫言を云ふ者もあります、これは往々若い時の思出の事が多い、これに關する其外の報告も一致して居りまして、殊に大怪我をして死ぬ樣な場合に自分の通つて來た一生涯が電光の如く思ひ浮び殊に其生涯の初の部分が明らかに現れると云ふ事であります。

チユリツヒの地質學教授ハイ子氏が講義の中で山から谷底へ墜ちた者の怖れも痛みも感じなかつたと云ふ多數の例を話して居りますが、これらのものは、

静かな厳かな、全く諦らめた心持に成つて精神がしつかりして、そして考へが非常に早くなると云ふ事であります。

而して其間は墜たらば如何なるかと云ふ様な事は殆ど思ひ浮ばず、これまでの全生活が目の前を通りすぎる最後に墜落者は不思議の音樂を聴いて恰も薔薇色の雲に乘つて極樂世界へ入る様な心持がすると云ふ事である。然しそれが直ぐ死んで仕まはねば墜落に由る死は實に悲惨なものであります。

モンテーヌ氏は馬からひどく落ちた時に極樂行きであると思ふたそうでありますが、炭酸中毒、或は、窒息に由つて死にかけた者も同様の感じがするそうです。

グッコフ氏は羅馬の魔術者と云ふ小説の中にケルンの代言人で快樂の爲に首縊りをやる癖の有る人の事を書いて居りますが、これは首縊りを爲る特別な道具を拵らへて窒息の初まる時に非常に心持のよい感じがして微妙なる音樂を聴くと云ふのであります、それで其召使の者に丁度適當な時機に生命を取り止めねば成らぬと云ふ大役を前以て言ひ付て置いたと云ふ事です、これは全く作り噺しの様に聞へますし又物識の醫者でも斯様な話しを凡て物語りと仕て排斥する人もありまして墜落に付ても同様に申します然し澤山の一致して居る報告で見ますると、それが作り噺しであると云ふうたがひを置く事はできません。

死ぬ時に其人の考へが往々特別に明るくなるものであると云ふことも、多くの醫者は、寧ろ、精神力は甚だしく弱つて、意識は殆んど消失に近いと申します、然しながら精神病の人が死ぬちき前に平生と反對に物事がよく分る様になると云ふのはこれさ反對の事を示して居ります、亦死ぬ者が最後迄氣がたしかであつて、考へも明かで有つたと云ふことは屡々聞きます事で、尚ほ次の様な報告はこれは拒む事は出來ないと思ひます、即ちセダンの戰ひで戰死を遂げたゲルスドルフ大將はその死ぬまぎはに臨で一曲

の音樂を奏せしめ、大將フランソアは將に命を終らむとする時に、戰場の死は誠に結構なものである、私は戰鬪の進行するのを見るから、悅んで死ぬと叫んで居る。

死刑に處せられた者の首に就て見ても矢張さうである、乃ちドクトルフエンチンは、法醫學の雜誌に首を刎られたものゝ二例に就て左の如き詳細な記事を載せて居ります。

千八百五十七年七月三十一日午前九時十七分、處刑者の首が落ちた、胴を離れた首の顏は硬くなつて動かず、只頸の切口と皮膚の縁が痙攣性にピク〳〵動いて居る、九時二十分に初めて深呼吸をするかの樣に唇と顋とを開き、二分間の後ちに第二回、それから僅の間をへだてゝ十分間に八回同じ樣な運動をした。

千八百六十年二月十七日、オスナブリユツクに於て强盜殺人犯、クリスチン、ドグローが死刑に處せられた、首は斬首臺の上に右の頰を下にころがつた、兩眼を細目に開き眼球は動ず右の口角が痙攣性に引付けて顏付きはいかにも穩やかで吾々は此の胴から離れた首を暫時立つて見て居つたが、深呼吸をする樣に大きく口を開いて再び閉たが、全く家族親戚に取圍まれて安穩に息を引取るものゝ有樣と同樣であつた。

終りに凍死する者の有り樣を非常に詳しく或る雜誌に書いてありましたが其內容は略ぼ次の樣な事であります。

キヤナダのトロントーの宣敎師イーゲルトンが、自分の家から大凡百マイル程隔つた處で犬を連れた亞米利加土人を案內者に、森の小屋を出て、約二百マイル程參りましたが、其の時に、天の一方に不思議なる現象を認めた、それは太陽が四つの明瞭な輪に圍まれて、其の各々の輪の中に、又太陽が一づゝ輝いて居るのである。亞米利加土人は、此現象は怖るべき嵐の兆だと云ふた、そうする內に日も暮れて、この現象も消えて仕まつたが、夜になると此土地に

も珍しいほどの寒さになつた。此小遠征隊は焚火をして、其の周圍に陣をとつた、そして、茶を沸して熱い藥鑵から注ぐと、もの〻五分と經たぬ内に、それが茶椀の中で氷つてしまふ、牛乳も同樣嚙み碎かねばならぬと云ふ有樣であつた。

翌日はキラ〱太陽が輝いて居るにも係らず、寒さは非常なもので、光線も氷柱であるかの樣に見えた雪は三尺乃至五尺の高さに積つて、只だ、其處、此處に、野獸の跡を見るばかりであつた、宣敎師の手は、寒さの爲に硬ばつて、氷るのを防ぐために、一生懸命手を動かさねばならぬ有樣であつた。そのうちに身體の部分も寒さの爲に剛鐵の甲冑を來た樣になつた、衣類がカチ〱に氷つてしまつたのである。

その内に、忽ち耳に微かな音樂が聽え始て、夫が何とも云へぬ諧調となつて溯り、それと同時に、其周圍が非常に輝いて、まるで數千のプリスマで光りを屈曲したかの樣に見えた、この音樂と輝きは、たゞ數分間、或はたゞ數秒間續いたので有らうが、その時間の長さに付ては報告者自からもよくは分らぬのであるが、其同伴者を見樣と思ふた時に、この哀れなる一行を見ずして、フク〱した腰掛のある馬車を見る樣に思れた、又到る處に、非常に優しく話しかける樣な音や聲をきいた、そして「お前は疲れて居るこつちに來て休むがよい、この微妙の音樂を聽け、そして、旅を續ける前に、この立派な有樣を見よ」と云ふ言葉を、明らかに聽いたと思ふ。

已にこの音樂の聽え初めた時から、旅行者には寒さの感じが無くなつて仕舞ひ、立派な馬車を見た時に非常に快よく睡氣を催ほして來て、腰掛の上に横たはつてその音樂を聞き、その景色を眺めたいと思ふた。その時に彼は再び別な聲で、親切に而かも力を込めて言ふのを聽いた『オイ〱、汝は將に凍死せんとして居る、北極探險者の話もあるぢやないか、起きよ〱、さうでなければ、それで死んでしまふのだぞ。憩んではいけない、目も耳も此等の音樂や

景色に閉ぢなければならぬぞ」。そこで最後の力を奮つて、起直つて犬を呼で進ましめた。而して雪靴で以て馳け出したが、時々雪の壁で出來て居る長い塀の中を眞逆樣にこけ墜るやうな氣がした、又空中を急いで歩つてるやうな感じがした。而して石や岩などにも振こかされたが、それでも助かつたといふのは眞に不思議なことであると彼は云ふて居る、斯樣に不隨意になり殆ど無意識の狀態にまで陷つたに拘らず、よく癒つたのである。

尚ほイーゲルトンの話すには、一體どの位の距離を振りこかされたかは殆んど覺もないが、漸く本性が付いて、全く自分の狀況を意識するやうになつた時の瞬間は、あり〳〵と見出すことが出來る。蓋し絶へず烈しく運動を續けたので助かつたものと思はれる。併し將に死なんとしたその瞬間の狀況は、一寸書き表はしやうがないが、その死は確に有難い解脱であつたらうと思はれる。兎に角、綱で以て曳ずられる代りに、犬橇に乘るだけの力はあつたが、丸で薊の敷物に坐つて居るやうな心持で、それでも遂に彼の爲に心配をして呉れた亞米利加土人共の焚火の處まで達して、熱い茶と、丁度こしらへられて居つた食物にありついて、漸く恢復したといふ始末であつた。

尚ほ茲に述ぶべきことは、人の死ぬ時には、總ての感覺の中で、聽覺が一番最後に亡くなるといふことであります。それで臨終の人の枕もとで、わあ〳〵悲嘆の聲を上げるなどは、其人に對して考のないことゝ云はなければなりません。臨終の人の牀の邊はあくまで靜粛ならしめよ。



嬰兒の取扱

子供が生れますると、その最初八日間には、實に非

常な變化が身體に起ります。先づオギャーと初聲を揚げると共に肺臓の働が始まつて、自から必要な酸素を十二分に體中に取込む、物質交換が獨手に行はれ始める、消化器は最初の一日は食物の必要もなく只だ綠色の胎便を排泄する、つまり今迄の世界から此の別世界へ遷つて來たのであります。

初生兒の身體には粘々した假漆のやうな物が著いて居りますので、是非產湯が必要なのであります。その溫度は攝氏の三十六度といふのがお定りでありますが、これは西洋人のことで、我邦の人は昔から非常に熱い湯に入る癖があるので、祖先傳來の習慣でありませうか、初生兒であつても三十六度では風を引かせさうな氣が致します、實際三十八度乃至四十度で丁度よい加減です。これは大概手を入れて見れば分かりますけれども、矢張よい加減にせず、寒暖計で計るやうにしなければなりません。

湯を使はすに備へて置くべきものは、大きな海綿、或ほ柔かなフラチルを二折にして縫合はせたもの、それから顏と目の爲に別の鉢と海綿、尙ほ脂肪（ラノリン）一壺と硼酸末又は亞鉛華澱粉のやうな粉であります。

湯を使はせるには勿論これに慣れた人でなければなりませんが、左の手で頭を支へて、右の手で身體を洗ふのであります、但し擦らずに洗ふ、而してその時間は五分より長くてはいけません。この身體に著いて居る粘々したものは大概三四囘湯を使はせれば無くなるものであります。それから顏面と眼は、特別に三十二度乃至三十三度位の水で洗つてやるのですが、眼は常に外の方から鼻の附根の方へと拭くのであります。而してこれを溫めた布で以て、擦らずに拭き乾してやるのであります。

特に氣をつけなければならぬのは、臍帶でありまして、これには、その緣や周りをよく拭き取つたならば、左上の方へやつて、その上に、少々脂肪を塗つたガーゼを二枚にして置いて、その上を絆創膏で十文字に留めるのであります。臍帶を布で卷いて置く

のはいけません、これは大抵ずれるばかりでなく、往々強く卷き過ぎて、小兒の運動を妨げるものであります。それから繃褓を二三枚敷いて暖い毛布にくるむで寢かします。

眠りは大抵十二時間乃至十六時間續きますが、何せよ産れる時に烈しく揉まれて、久しい間の微睡から醒されるので、赤坊も疲れますから、斯樣に眠るのも不思議はないのであります、決してこの睡眠を妨げてはなりません、食物でも其他の事でも必要が起つて來れば、自ら告げるものであります。

目が覺めましたならば、先づ第一に手早く濡れた繃褓を更へてやつて、少量の溫かい砂糖湯位を與へれば澤山であります。二三遍小兒が啼いたからとてそれがお腹が空いた爲ではありません、啼くのは初生兒に於きましては必要の働きであります。

第二日目にもお湯をつかはす、これは毎日續けるのでありますが、初めの内は何時でもお臍に氣を付て既に取れかゝつて居つても決してこれを無理にとつたりしてはいけません、大概四日乃至七日頃迄には自然にとれるものであります。其後も暫くは清潔なガーゼをあてゝ前に述べた樣に絆創膏で止めて置くなり、或は腹帶を爲て置いてもよろしい、そしてこれは毎日お湯をつかはす毎に取代てやる、お臍のとれたあときれいに乾かす、膿などもつた時には生ぬるの硼酸水で洗つて、デルマトール、或は硼酸末をつけて其上に清潔なガーゼをあてゝ置かねばなりません。

其後のお湯も初めと同じ樣でありますが、先づ初めの八日間は同一の溫度にして、それから後は一週間毎に段々少しづゝお湯の溫度を低くして、初めから見ると、四度乃至五度終には殆ど十度位迄も低く致します、それからお湯をかけてやるには蒸露鑵の樣な物を用ひれば便利であります。斯樣にして皮膚を溫度の變化に慣して、氣候の變化にも堪へる樣に爲るのでありますが、さればと申して初生兒を冷水の中に入れたり、つめたい水を灌ぎかけたりする事は

禁じなければなりません。小兒の身體は段々氣候の變化に適應してゆくのでありますから、初めには先づあたゝかいものから初めるのは當り前であります。

お湯に兼ねて空氣に當てるのは頗る結構でありますが、春及び夏に生れた小兒は既に一週間の後にはよい天氣の時には毎日外に出してよろしい、但し直接日光に當てはなりません、殊に頭は廂の廣い帽子で防がねばなりません。それから段々後になりますれば、著物を薄くして風の無い時に日光浴及び空氣浴をやらせるのもよろしい、冬に生れた小兒はこの點に於て甚だ不利益である。然しこれらの事は餘り早くからやつてはなりません、それで最初は注意して部屋の中で風に當てるのであります。歩散する時に何時でも小兒を乳母車の中に置いてはいけません、大人の上膊に小兒の背をもたせかける樣にゆつたりと抱いて、これも時々左右交へた方が宜しい、そして小兒はこのまゝ決して眠らしてはいけません、眠る時には乳母車或は牀の中に寢かさねばなりません。

目を覺ましてる時に小兒を抱いて歩きますと、小兒は物珍らしげにソチコチと見まはしますが、これが卽ち小兒の精神發達の初めで、且つ五官が當前へに發育するに是非必要なばかりでなく、かの非常に多い近眼もこれで防がれるのであります、何時でも寢てばかり居つて、狹い範圍で目を働かして居る小兒は將來近眼になるのはこゝにも一つは原因があるのであります。

寢牀は小兒に於いては最も大事な物でありまして、初め一ケ月の間は毎日二十時間から二十一時間位をこの中で暮すのでありまして、半年經つ迄は尙ほ少くとも四分の三は牀の中に居るのであります、小兒の牀は別に爲て決して母親の中に一緒に寢かしてはいけません。

寢牀として最もよい物は馬の毛を中に入れ軟かい子ルの片れでこしらへた蒲團であります。それで頭部

は少し高くして置くのでありますが、枕は矢張り堅の毛か海草で拵へるのが最も良いのであります。羽蒲團は健康によろしくない、ズリまするし、濕めつて惡い臭ひがしてくるばかりでなく、又餘り溫か過ぎて小兒を弱くするものであります。

カルリンと云ふ人は自然觀察者として評判の人でありますが、文明人の小兒と未開人の小兒との違ひを極めてよく表した二樣の畫を書きましたが、文明人の小兒の方では掛け蒲團が寢牀を離れて頭の方に橫はり引蒲團はまるまつて、そして眠つてる小兒の頭はそつくり反つて口を開いて、呼吸は口からのみしなければならぬ樣に見えて居る。これに反して亞米利加土人の小兒は平らな硬い敷物の上に寢かされて只頭はやゝ高くして居る（これに由つて止むを得ず口を閉ぢて鼻で息をして居る）そして毛布でくるまれて、其れがズラない樣に帶で結いられて居る、これを見るとどこが文明の進歩して居る處かゞ一見して分ります。

次に小兒は、牀の上で寢かすがよいか、車の上がよいか又は搖籃の中がよいかと云ふに、これはまあ何れでも似たものでありますが、召使の者などに打任かせて、搖籃の中に入れて置きますと、往々善くないことが起ります。ひどく搖動かすのは、小兒に害のあること勿論である、それで最初の一月位は乳母車で寢かす方が最もよろしう御座います、これは程よく暖かにも出來靜かに動かせば小兒を眠らすにも都合がよろしいからであります。

小兒の爲に特別な部屋を備へる事が出來れば誠に幸ひな事でありまして萬事都合が宜いのでありますがそう理想通りにばかりもまゐりません、其時には少くとも小兒の爲に特別な場所を設けたら宜からうと思ひます、それはどうするかと申せば、四尺乃至四尺五寸位の長さで二尺位の高さの四枚の板で框を拵へて、其四隅は簡單に楔止にして置き、其緣と緣の間には細い棒か或は綱網を張り渡して其上に絨氈を掛る（牀ではない）そして其上に屢々清潔な麻布れを

取り代へて掛るのであります。三ヶ月乃至四ヶ月位から毎日一時間づゝ小兒をこの上で遊ばせる、それから匍匐樣になりますればこれは健康上誠に宜い運動場となります。

經驗のある看護婦或は母は彼の付紐を以て歩よを敎へる樣な事は決していたしません。最初小兒が驅けだす時にも決して喜んで助ける樣な事をしてはいけません、寧ろ斯樣な事を致しますると云ふと足が曲つたり致します、此時期になれば乳母車も、も早母親や乳母の便宜丈けで小兒の爲にはなりません。

兒童の心に及ぼす色の感作

ドクトルフォン、ランドーチといふ人が、種々の色が、兒童の氣分や精神の働に及ぼす影響について試驗を致しました所が、その成績は左の如くであつたといふことであります。

その法は、先づ各種の色の光を以て室の内を照してその中で兒童に仕事をさせて見まするに、赤色の幕を掛けて、赤色の光線で照します場合には、その他の色の時よりは、二倍も多く仕事が出來て、血の循りもよくなり、心臓の作用も食慾も增して、お腹が空いて平生の食事では足りないといふ事であります。

黃色の光線は、兒童の氣分に著しい感作を及しまして、平素その遊仲間と仲がわるく、よく喧嘩をする子供も、温順しくなつて、仲をよくし、平生なれば二時間かゝる仕事を、それよりも五〇%だけ多く爲ることが出來ました。

黑色の紙を壁に張りて、窓に黑幕を懸けますると、兒童は澁面作つて、氣六か敷くなり且つ鬱ぎこんで仕事は平生の半分しか出來ず、胃の具合が惡くなつて參ります。

青色は靜かに落つかせる作用があるものと見え、兒童が眞面目になります。

綠色は最も成績が善く、この色を用ひた場合には、

大に仕事が出來てその結果も良く、疲れることも少ないのであります。殊に面白いのは、室の壁に七色の布を掛けての試驗でありまして、窓掛と室内の光線の色を半時間毎に變へたのであります。所がその室内に居つた兒童等の仕事は、平生より凡そ二〇〇%ほど増して、その成績も良く、一人も疲れたものがない。又その爲に頭痛を覺えたものもなく、終まで始と同樣に上機嫌であつたといふことであります。

こども（承前）

前號では、麻疹のことについて、大體をお話致しましたので、今回は順序上肺炎のことをお話し致す考へでありましたが、近頃の新聞で見ますと、猩紅熱が大變流行して居るやうでありますから、今のところ猩紅熱のことをお話致すことは、ぜひ肝要であると思ひまして、順序ちがひの飛入ではありますが今回は猩紅熱のことをお話致すつもりであります。

猩紅熱

さて猩紅熱と云ふ病氣は、その名を見ても、すぐ想像ができるやうに、身體が猩紅色になるものであります、そして恐ろしい傳染病で、小兒病の内では、一番惡るいものであります、併し三歳以下の小兒には、そんなに澤山はありませんが、三歳以上から十歳位までが、一番よくこの病氣に罹るものであります、この樣に丁度家の外で遊び盛りの小兒が、一番よく罹るものでありますから、尚更十分の注意を拂はねばなりません。

猩紅熱は傳染病でありますから、いづれ何か黴菌がゐる筈でありますけれども、これはまだ發見せられてゐないのであります、それ故尚更注意をしなければなりません、闇夜が怖いと云ふのは、そこに何がゐるか判らないからであります、それと同樣に、どこから病氣が傳染するのかゞ判らないほど、怖いことはありません。

兎に角何か判らない黴菌が小兒の身體の内に這入り込んでから、一日から七日位の間は、別段何も變つたことがありませんで、通常のやうに、機嫌よく遊んでゐます、併し身體の内には、恐ろしい黴菌を持つてゐるのでありますから、一所に遊んでゐる外の小兒に、その黴菌を遷して、それをも一所に病氣に罹らせるやうなことになります、この時分を潛伏期と申します。又或小兒では、この潛伏期の時に、機嫌が惡るくなり、手足に何んとなく疼痛を感じて、一向元氣がなく、食物も進まないと云ふやうなことを起すものもあります。

この潛伏期がすむと、本當の病氣が顯はれて參りますのでありますが、今迄何んともなかつたものが、俄に寒戰を催ふして、熱が出てきます、二歳三歳位の小兒では、瘈瘲を起すことが度々であります、そして頸の所が、大變痛んで、身體が疲勞いものですから、臥て許りゐて、食物を厭い、嘔吐したりします、その時口を開けさして、咽頭や、口の内や、舌などを檢査致しますと、皆眞紅になつてゐまして、腫れ上つてゐます、咽頭の兩壁にある扁桃腺は、眞紅になつて腫れてゐます、熱はだん〱高くなつて來まして、大變渇を覺えます、外面から頸の所を見ますと、頂度瘰癧のやうに、グリ〱が澤山できてゐます、このやうな時を侵入期と申しますが、これは昔潛伏期と云ふものがないと思つてゐた時分に、種々の變化が顯はれるのを見て、この時病毒が侵入するものと思つたためであります、この時期は極く短かいものでありまして、二十四時間から三十六時間位までが普通であります。

この時間を過ぎますと、先づ項の所に、赤い發疹が出來ますが、それがだん〱と胸や顏の方に擴がつて參ります、この發疹は日中によく見ますと、小さな赤い顆粒が聚つてできてゐることが判ります。初めの内は點々に、これが生ずるのでありますけれども、後になるとこれが一所になつて了ひ、また手足にも澤山出來てきますから、身體は一面に眞紅にな

つて、顔は頂度、お酒に酩酊したときのやうになります、斯うなりますと、熱も高くなりますから、小兒は大變苦んで、水を欲しがり、痙攣を起したり、譫語を曰ふことがあります。顔は一面に眞紅になりますけれども、只口の周圍は紅くならないで、頰と額とは一番紅味が强いのであります、その外項、腹手の甲、前膊、足、膝なども、隨分紅くなります、この紅い處を指で押へて見ますと、紅味は薄くなりますが、その代に黄色に見えます、この色をよく見やうとすれば、額を硝子板で押へて見れば、一番よく見えるのであります、口を開けて檢査致しますと一面に眞紅になつてゐて、扁桃腺は大きく腫れ上つて、舌も眞紅になり、その表面には小さな顆粒が出來て、頂度桑の實かまたは苺のやうに見えます、時とすると白い斑點が澤山に出來てゐることもあります、斯う云ふ有樣でありますから、小兒は物を食べるときに、咽頭が痛むので、少しも乳を飮まなくなります、この間が丁度五日位で、これを發疹期と申します。

このときが、一番病氣の重いときでありますが、これがすむと、今度は落屑期と申しまして、今まで出來てゐた發疹が、とれてくるのであります、その順序は出來た順序と同じやうで、まず項からとれ始めますが、そのとれ方が大變面白いので、顔の方ではこまかな粃のやうなものになつてとれるのでありますけれども、手や足では、丁度手袋や足袋を脱いで置いたやうに、とれた皮が、手足その儘の形を保つてゐます、それ故手足の皮が一枚剝げたやうに見えます。このやうにして、身體の皮がとれると、從つて紅味も褪えて了ひます、そして病氣は治癒して了ふのであります、そして一度この病氣に罹りますとモー二度とは罹ることは、先づないとしてあります、併したまには二度罹ることもあるやうに見えます。

大體病氣の有樣は、只今申上たやうなことでありますが、この病氣に罹らないやうにするには、どうす

れぱよいかと申ますと、先づこの病氣は傳染病であつて、そしてその原因が判らないと云ふことに注意しなければなりません、病氣と云ふものは、その原因が判つてゐて、その原因を無なし、またはこれを遠ざけることが容易にできさへすれば、どんな怖ひ病氣でも、一向怖がることはないのであります、虎列拉や赤痢などは、まだその黴菌が發見せられなかつた昔には、大變怖ひ病氣で、これを豫防すると云ふことは、勿論出來ず、不幸にもこれに罹ると、只そのまゝにして置いて、運良く自然に治癒るのを待つてゐたのであります、斯う云ふ風でありますから病氣になつたものは、先づ死すると云ふことを覺悟せねばならなかつたものであります、併し黴菌が發見せられて、その黴菌は何處にゐて、どう云ふ風にして人體に這入り込むかと云ふことも判り、又この黴菌を殺して了ふことも十分に明になつて來ましてからは、もうこの病氣は少しも怖くなくなり、十分に豫防法を守れば、決して病氣に罹ることはないやうになりました、醫學がだん／＼進歩して來るにつれて、大抵の病氣は、その原因が明になりましたけれども、まだ原因の知れない病氣は澤山あります、前號にお話致した痲疹と云ふ病氣も、まだ原因が判らない病氣でありますが、猩紅熱も亦その通りであります、それでその原因は何處にゐて、何處から人體に這入るものだか一向判りません。

病氣が起ると云ふことは、身體が弱いと云ふことに本づくものでありますから、どの病氣に限らず、身體を健康にすると云ふことは、病氣を豫防することについては、一番大切のことであります、そして猩紅熱は初め咽頭に變化を起すものでありますから、咽頭を健康にすると云ふことは、最も大切のことであります、寒い時分には、小兒はよく風を引きまして、鼻が塞つて、始終口から呼吸をするやうになります、そうすると、冷い空氣が直接に咽頭に當りますから、咽頭の粘膜は加答兒を起して、よく人が云ふ咽頭加答兒と云ふ病氣を起します、併しこの病氣

は極く輕いものでありますから、一向氣を付けないで、そのまゝにして置く人が澤山あります、さうすると、猩紅熱の黴菌が呼吸につれて、口の內に這入り込んで來て、そのいたんでゐる咽頭に附著いて、トウ〳〵猩紅熱に罹るのであります、それ故感冒に罹らないやうにすることが、一番大切なことであります、小兒は暑さ寒さに厭ひなく、外に出て遊びたがるものでありますけれども、寒い日などは、外に出さないで、家の內で遊ばせるやうにして、それでも感冒に罹つたら、すぐ醫師の診察を受けて、早く治療して了はねばなりません、それからこの病氣の原因は、病人の呼氣や唾液や、病氣が治癒るときに剝げる皮などに附著いてゐるものでありますから、若し近所にこの病氣が出來たときは、その家の近くには、小兒を遣らないやうにすることは、夢にも忘れてはなりません。その外食物、衣服などにも黴菌が附著してゐるものでありますから、これにも注意しなければなりません、また猩紅熱に罹つた者がゐた室には、長い間黴菌がされないものでありますから、病人のゐた室には行かない方が、安全であります。

近頃猩紅熱が流行する樣子でありますから、小兒には十分氣を付けてやらねばなりません、だん〳〵暖かくなればこの病氣は減つてくるものでありますが一番多いのは春と秋であります。この病氣は八種傳染病の一つでありますから、この病氣に罹つたら自宅で養生させることは、出來ないので、ぜひ入院させねばなりません、併し世の中には、莫迦なところに、外見を張つて、傳染病の病人を出したと云ふことを恥かしがつて、不正の手段で自宅で養生をさせそれがために十分の養生が出來ないで、病人は死んで了ひ、それればかりでなく、外のものにも傳染させると云ふことが度々ありますが、これは甚だよくないことで、牛の角を矯めやうとして、牛を殺して了つたと同じことであります、それ故若し疑はしいときには、信用のある立派な醫師に診察を乞ふて、早

く適當の處置を受けて、若し本當の猩紅熱ときまればすぐ、入院させて、十分の治療を受けさせるのが最も安全な方法であります。

以上三回に渉りまして、小兒に關することをお話致しましたが、あまりご參考にもなりませんで、甚だ遺憾に存じます。今回でこの標題のお話は一應終りと致しまして、次回からはまた外のことをお話することに致します。

（完結）

家庭衛生

食事の注意

我等の身體は、日々夜々に消費されつゝあるによつて、これを補つて行くために、榮養を取るのであります。そして一方から出るかはりに、一方から這入つて丁度收支其宜しきを得れば、身體は健全に保持されて參ります。それゆゑ若し此平均が、亂れて、收支何れかが、輕重を呈すると云ふことになれば、身體に異常が、現はれて、偖ては病氣に罹ることゝなる。

我々が日々外から食物を採つて、身體の費えを補つて行くことは、前述の通りでありますから、どんな英雄でも、豪傑でも、食物を採らずに生活して居ることは、出來ませぬ。石炭の種が消えると、器械の運轉が出來ないのと同じことであります。

我等の身體中には、種々の役目を守つて居る器械が夫々毎日勉强して働いて居る、其働く力の動力は、もとを尋ねると、皆口から供給せられるので、口は榮養の關門である。

此等の身體內の諸器械が、規則正しく秩序を守つて運轉して行くには、其資力となる榮養を適當にしなければならぬことは、勿論のことです。これには、凡そ二つの點に注目しなければならぬ。一つは、どんな種類の榮養物を採るか、他の一つは、其榮養物

は、どうして用ゐらるゝかと云ふことである。言ひ換へて見ると、私共は如何なる食物を、如何に調理して用ゐねばならぬかと云ふことであります。食物の用は、只一時の食慾感を充たしめると云ふのではない、我等の身體を安全に維持して行くと云ふ大責任を有して居るのでありますから、食物の用を忘れて却て反對の悪影響を招くが如きは、以ての外のことであります。

諸子の既に知らるゝ如く『我等は食はんがためにとて生けるにはあらで、生きんがために食ふなり』と云へるソクラテスの言は、誠に眞理を言ひ表はしたものと思ふ。これは、我等が始終守つて行かねばならぬ良い誡だと思ふ。私は、尚一言を加へたい、即ち『我等が生くるは、月日を過ごさんとにはあらで與へられたる職分を成さんために生けるなり』と。食物は素より生きんがために採るのであるが、生きるは、働くためにと云ふことが、唯一の眞理とすれば、食物は働くために採るといふことになる。飽食暖衣は、意味の無いことになつて仕舞ひます。『汝の顔の汗によりて、汝の食を採るべし』と云へる諺は、遊惰放逸の輩に下す一鐵槌であります。さらば我等は、適當の食物をとりて、身體に異常を招ぐことなく、全身全力を盡して我等のとるべき職務に忠實なるべきは、これ人間當然の務めである。健全なる身體を以て、天下の事業をなす、これより大なる快事なし。言ふ勿れ婦人は、天下の事業に參與せずと、婦人は、自ら子女を産み、自らこれ等の子女を哺育する天職がある、此偉大なる天職を有する婦人は、天下の事業に資すること甚大なるべきは當然のことである。

それは先づそれとして、食物の種類と、調理の仕方とが、我等の身體に重大の影響を及ぼすことは、上文にも既に述べましたが、このことは、誰人も常に深く注意をして居らねばならぬことであります。仕事の樂み、努力の慰めと申すものは、我等の身體が、健でなければ、味ふことが出來ませぬ。此身體

の健康は、又身體の保護と榮養とが其宜しきを得ざれば望み難いことになつてしまふ。

かく觀じ來れば『健かなる身體に於てのみ、健かなる精神は宿るなり』と言へる諺の、いとも眞を言ひ現はせしことを思ひ浮べずには居れませぬ。

我等は、健全なる精神を養はんため、健全なる身體を保持せんがため、而して己が業務を忠實に遂行せんがため、何を措いても、榮養の注意を守らねばならぬ。

酒精性飮料の如きものは、極めて小量に用ゆれば、却て其效果の見るべきものがあるなどゝ言つて、永い間此習慣をつけて行くと、雨垂が、石を穿つ如く身體に異常が生じて、さてはそれが、病氣になつて仕舞ひます。

食事を採るに方つて、無闇に大量を、或は極めて少量を用ふること即ち不規則な量は、胃に惡い影響を惹び起す。即ち大量に過ぐること頻りなれば、胃が一時、異常に擴張して、それから後に元の大さに縮まることが、出來なくなつてしまふ。従て其胃の作用も弱くなつて、普通のものには及ばない、唯にこれだけではない、食物が、長く消化せられずに胃の中に殘る、するとそれが腐敗する、むかむかするやうになる、胃の中の膜が、刺戟を受けて、炎症を起し、さてはとう〳〵慢性の胃加答兒になつて仕舞ふ何でも慢性になると、中々治り難い。慢性胃擴張になると、食後間もなく、再び食物が欲しくなる、そこで食べる。食べても、消化しない、消化しない、食べたくなる、即ち原因が結果になり其結果が又原因となると云ふ鹽梅で、始終二つが連絡して居るため、中々治りにくいのであります。

滿腹と云ふ感じは、可なり多く食べた場合、又は、幾回となく食事をとつた場合に見ることであるが、食べ過ぎをすると、前回の食事の殘りがまだ腸の方へ行かぬうちに、次の食事がやつて來るのであるから、中々消化が思ふやうには行かぬ、それだから、一時にあまり多く食べ過ぎぬやうにして、前回の食

事が全く腸の方へ行つてしまつた後に次の食事をとるやうにするのがよろしい。

お腹が空いた時が、食事の適當な時間と見るよりは時計で食事の時を定めて置く方がよろしい。

お腹が空いたからとて、あわてゝ食事をするのもよくない、少しは辛棒することも必要だし、身體が重重しくなつて動きにくい程食べてはいけぬ。

（以下次號）

長命法（承前）

レイ、レンクスター

レンクスター先生は有名な科學者で、千八百四十七年の生れでありますから、本年六十三歳であります、目下英國博物館の自然歷史部の部長を勤めてゐる人で、故はヨークの英國會社の社長でありました（千九百六年頃）。英國の自然科學者は、隨分有名な人が澤山ありますけれども、レンクスター先生位その名が世界にひゞいてゐる人は他にありません、娛樂としては、打毬戲を好んでゐると云ふことであります、目下の住居はサウス、ケンシングトンのチユアロー二十九番であります。この方の養生法に就ては、大變詳しい御返答を得ましたから、大變利益のあることと思ひます。そのまゝを譯して見ますと次の樣であります。

食物、飲料、喫煙と云ふ、この三の問題に返答をするには、自然どうしても、次の五の問題から先ず考へて行かねばなりません、(一)睡眠時間の長さ、(二)職務の性質及びその多寡、(三)運動の種類及びその程度、(四)娛樂の種類及びその分量、(五)新鮮の空氣と日光とを使用する分量、それと反對に閉鎖した室內及び暗い處に居る時間、と云ふ五のことでありますが、これ等には、大抵の人が慣れてゐるものでありますから、あまり心に掛けてゐない樣でありますけれども、人體の健康の上から申せば、餘程眞面

目に考へねばならぬことであります。私は丁度十年前から、毎日午後になると、野外に散歩することにきめてゐますが、新鮮な空氣を呼吸し、日光に浴すると云つたところで、限りなくこれ等の恩惠を受けることはできないものであります、自然に一定の限りがありますが、これと同じ様に、外のことにもすべて一定の制限と云ふものを立てゝ置いて、適度にしなければなりません、散歩などもそれぞれ人に依つて、その長短を異にしてゐますけれども、まづ平均して申せば四里を限りとして、これ以上またはこれ以下は害があるもので、時とすると長い散歩のために心臓を害したりする様なことがあります、これは身體のことでありますが、精神上の職務や娯樂なども、またこれと同じことであつて、あまり多きに過ぎても、また尠な過ぎてもいけないのであります、睡眠は精神の疲勞を恢復するためには、是非必要のものでありますけれども、これも多すぎると、頭痛、不愉快などを起すものでありますから、あまり長い間眠るのは、矢張り害があります、この様に何でも、多からず尠からず、適度と云ふことを守つてゆくことに氣を付けねばなりません、さて私の日常の飲食物のことを申して見れば、

（一）食物　私は六十歳にもなつてゐるのでありますから、とても暴食、大食などは決して出來ないのであります、このことは私の様な老人に限つたことではなく、また若い方々にも矢張必要なことであると考へます、チッテンデンと云ふ人の養生法は私にも必要でありますから、私はこれに則つて、養生法を行つてゐます、その外一日に二度酸牛乳（メッチユニコッフ氏のヂクト、バチリーチを牛乳に加へて、牛乳に酸味を與へたもの）を飲用致します。チッテンデン氏の養生法と申すのは、魚類、芳香物、鷄卵、乾酪、牛乳、麪麭、牛酪、豆類、少量の鳥肉及び獸肉、羊肉のカッレッを用ふる法であります。

（二）飲料　一日に弱い葡萄酒三合許に、水を割つて一升位にして、それを用ひます、又はこれの代りに、極く輕い麥酒を用ふることもありますが、この外シャンペンやポートなどは宴會のときに飲むだけで、その他の強い酒類は決して用ひません。私の樣に頭を使ふものには、アルコール類は大變惡るいのであります、なぜかと申せば、アルコールは興奮作用を持つてゐるために、極く少し飲用致しましても、心臓を疲勞さして、精神を抑鬱さしてしまいます。

（三）喫煙　喫煙はよした方がよいかも知れませんけれども、私は食後には少々用ひます、併しこれで別段害を受けたと思ふことはありませんで却て氣分が良くなります。

アーサー、ジヨーン

有名な戲劇作者で、千八百五十一年に生れ、本年四十九歳であります、健康には餘程注意される方でありますが、養生法は大變簡單で、運動は乘馬と自轉車とで、別に申すことはないが、二十年前から禁煙してゐると云ふだけのことであります、住居はチンシングトンのボーントノ町三十七番であります。

（一）食物と飲料と　肉類、果物、葡萄酒の三つが日常飲食物の主なものでありますが、この内どれが利益になつて、どれが害になつたかは、わかりません。

（二）喫煙　二十年前までは喫煙致しましたが、その後禁煙してゐます。

ジヨージ、アール、シムス

シムスと云ふ人は、有名の著述家でありますが、生れたのは千八百四十七年でありますから、本年恰度六十三歳であります、この人は職掌柄で始終坐つて居る人でありますが、その娛樂は種々の野外の遊戲であります、著述家だけに、その手紙もなか〳〵面白くあります。

記者閣下ヨ、私は何も皆様の利益になるやうなことを、お話することは出來ません、そして甲の人に藥になるものは、乙の人に毒になることがありますから、私の養生法を必ず皆様の養生法として、應用することが出來ると云ふことは斷言は出來ません、併しお希望に從つて、私の經驗をお話致しましよう。

私は一日二回の食事を致しますが、朝は九時半に魚肉、鷄卵、カカオ、林檎などを食べます、晝食は午後二時に魚肉を食べますが、時々家禽の肉を加へて食べることがあります、その他の食物たとへばスープ、牛肉、乾酪、サラダなどは、あまり好まないから、一切用ひません、時々すると豚肉の燒いたのを食べることがあります、食事として食べるのは、これだけでありますが、間食として、夜になつて魚の燒いたのや、菓子などを食べることがあります。朝の飲料にはココアを用ひ、夕方には茶を用ひます晝食のときは何にも飲料を用ひません、一體私は渴を覺えることは少しもありません。朝起き上るや否や、煙草を手にして、夜寝るまで、片時も、これがなくては用が出來ません。

私の執務時間は、朝十時から午後二時までで、午後晝食後には執務することが出來ませんから、必ず野外に出掛けます、そして夕方は六時から又始めて十二時まで續けるのが例でありますけれども、日曜日は全く夜の執務を廢します。

私は或時煙草を喫む分量を少し減して見やうとしましたけれども、これは大變困難であつて、煙草なくては、一向何にも出來ないのであります、卷煙草刻煙草を用ひますが、葉卷煙草は一切用ひません。以上申上げた養生法は、私には非常に適當してゐますから、私は始終坐業を執つてゐながら、まだ一度も病氣のために、職務を怠つたと云ふことはありません。

エドマンド、グロッツ

この方は千八百四十九年の生れで、本年六十一歳で

あります、有名な文士で、批評家であります、この方の養生法と申すのは、次の樣であります。

（一）食物　私は食物に就ては、その性質よりも、分量を適宜にすることが尚更大切であると思ひます、それ故これ〳〵のものは、食べないと云ふ樣なことよりも、一番大切なことは、チャンと定まつた時刻に、少しづゝの食物を食べると云ふことであると思ひます、それで私は夕食後には、仕事をしないことに致してゐまして、夜食は一切用ひません。

（二）飮料　正午にはウイスキーに水を割つたものを飮みまして、夕食には輕い葡萄酒を用ひますが、ふだんは、これ以外の酒類は一切用ひません、たゞの酒はたいへん興奮性を持つてゐますから、仕事を終つた後に用ふることに致してゐまして、決して仕事に取り掛る前或は仕事の最中には用ひないことに致して居ます。この樣にして、他の酒類は一切用ひませんが、その飮む方の酒でも、常に少量を用ふると云ふことを第一の條件としてゐます、そうしないと私の身體には大變障ります、私の考へでは、神經質などには、時々少量のシャンパンを飮ませることは大變宜しい樣に思ひます。

（三）煙喫　私が煙草を喫み初めたのは、四十歳のときからでありますが、その後は始終これを用ひてゐます。そして私は喫煙を始めたために、一般の身體が健康になつて、萬事大變都合がよくなつたことを、堅く信じてゐます、この樣に煙草には私は贊成する方でありますけれども、仕事をしながら、喫煙することは決してありません。

（以下次號）

子供の心の衛生

此一篇は特別贊成員原胤照氏の寄せらるゝ所也。編者

誰樣のお机の上にても堆高きは、各種の雜誌、私な

どの下にすら左樣ですが、私の最も興味多く繙くのは、此の婦人衞生雜誌でございます。つまり有益な文字が多いからである。その有益とするのは、大切なる自己の生存に係る事項があるからで、自己ばかりでは無い、自己に責任ある子供家族の身體保險に必要なる智識を得るからでございます。

然らば人體の保健よりも、尙貴重なる人心の保健に就ては、層倍の智識を得たい譯でせう。その研究は自ら問題を轉じて倫理となり宗敎となるのですがそこまで蹈み込までの間の子供の心の衞生に就て、大に吾人は注意を拂はねばならないのでございます。

そこで私は皆樣も御承知下さる通り、二十有餘年、心の病に罹つた人、あの犯罪人を研究し、心の病を治癒する事を實驗いたしまして、大に氣の附いた事があるのです。犯罪人不良少年の出來ますのは、全く幼稚間の育て方、躾け方にある、母の注意一つにあることを認めますので、出獄人を保護し、不良少年を感化せねばならぬものなれば、その先きに之れを造り出す阿母さんに其の急所々々を敎えて不良少年に仕立てぬ注意を與へねばならぬと思ひました。人心の惡るくなつて來る原因を見出しますことは、殊に由りましたら人體の病原を見出すよりも容易いかと思ふ程の事ですから、人體の衞生に於けるが如く人心の衞生に於ても注意せねばならぬものと思ひます。

之を人體の衞生に比較して申しましたなれば、恰度阿母さンが天然痘の瘡蓋を幾枚も々々も愛兒の體に貼附て置いて、其後子供が天然痘に罹つたと云つて大騷ぎをして居るやうなもの、甚しいのはコレラ病の汚物で水いたづらをさせて、コレラ病に罹つたとて大立腹、或は又猩紅熱の剝け皮を積み重ねてお孃さんたちに飯事をさせて置いて、それからサア宅中の孃つ子が猩紅熱に罹つて死ぬか生るかと泣くやらわめくやらの大騷動大悲歎、さても愚かやと云はねばならぬ事實があるのです。その事實事例をお話し

て見れば誰樣でも、左樣ですかね〱、と首肯れない方は無いのです。

私は終に之れを書き綴りて、『母と子』何うしたら子供はよく躾けられるか、と題し日本橋の博文館より出版しました、何うぞ私は此の本を諸君に讀んで頂きたいのです、私の願望には普く同胞に此の事實事例を理解して貰うたならば不良の人間は減少すると信ずるのでございます。

併し諸君の御家庭から犯罪人の不良少年のと云うやうな者の出やうは無いから不必要な注意として放擲すべきでせうか、否な、あるまいと思ふて居るコレラも天然痘もいつ何處から發生するか知れたものではありませんから矢張り豫防が大切と思ひます。

自畫自讃ですが『母と子』を讀まれた諸君が種々に評されましたが、某醫家の言に

原さん良い本を書いて下さつた、僕の藥よりも效績著しだよ、實はね僕の所では妻が病身だのに、子供澤山であるものだから、折々我慢しきれないで最う〱私のやうな弱い者は早く死んだ方が可い早く死にたい〱と云ふのは口癖です、所が、此の間、言ひますには、私は最う死にませんよ、子供をチャンと育てあげて仕舞うまでは決して死にません、此の本を讀んで、母の責任、母の感化がこれ程強きものかと其實例を聞いては、最う〱中々死ねませんと。



質疑

問● 八歲の女兒、睡眠中ひどくイビキを致しますが治癒す方法を御敎示被下度し。

會員 さき子

答● これは恐らく鼻か咽喉に病氣があるだらうと思

はれます。鼻茸、鼻加答兒などがあつて鼻で十分呼吸が出來ないとか、又は慢性の扁桃腺炎などがありますると、睡眠中に口を開いて、よく鼾聲を發するものであります、これは子供の身體並びに精神の發育に迄も害を來すものでありますから、一度よく醫師に就て診察を受け、果してそれらの原因があれば十分治療せられんことを希望致します。

問● 長い間旅行致しますものの懷中藥としては、如何な物を持つて居れば最も善いでせうか、實際何でもよくきくやうな藥を調合することが出來れば、その處方を教へて頂き度う存じます。

一會員

答● 懷中藥と申せば、よく廣告してある彼の仁丹、清心丹、ゼム、寶丹など丶云ふものが無數にありますが、賣藥ですからその效能書のやうに萬病にきくかどうかは存じませんが、口中藥として爽快で、又樟腦、薄荷などの興奮藥も入つて居るやうですから、實際此等も宜いでせう、但しどれが最も良いかは存じません、お好み次第です。次に醫者の方から申しますと、御希望のやうな萬能藥は御坐いませんが、一寸カバンの中に入れて置くべきものを申上げることゝ致します。

一、繃帶材料（卷軸帶一二本。三角巾一枚。殺菌ガーゼ及び脫脂綿少々。絆創膏。本誌一月掲載の家庭に備付くべき醫療品參考）。

一、興奮劑（カンフル、エーテル精等。用法は今茲に述難し）。

一、麻醉藥（コデイン、モルヒネ等。醫師の處方に依らざるべからず）。

雜報



○癈兵救護會

市内牛乳屋の婦人は、癈兵救護會を組織し、癈兵院在院者の家族を住居せしむ爲に、その附近に長屋を建築したるが、更に在院者竝びに其家族に慰安を與ふる目的にて、毎月金二十五錢宛醵出し、これを五ケ年積立てゝ、其の資金に充つることゝせりと云ふ。

○傳染病衞生隊

傳染病患者の輸送及び患家の消毒は、これ迄各區役所にて行ひ來りしが、去月二十一日の市參事會に於て之を廢し、新たに市廳内に患者輸送車六臺、消毒車二臺より成る衞生隊を備ふることに決したる由なるが、右衞生隊は、所轄警察署又は各區役所より傳染病患者發生の通知に接するや、何時にても患家に出張し、患者に看護人を添へて輸送車に乘込ましめ、これを傳染病院に送ると同時に、一方には消毒車を派して、從來よりもその輸送及び消毒を迅速且つ完全ならしむるにありと。

○新女醫

一月二十一日より永樂病院に於て擧行されし臨時醫術開業試驗後期實地試問の受驗者は男女總計五百四十九名あり、これを一組三十六名宛とし、各組の試驗を二日として、三月一日全部試問を終へたるが、女子の應試者二十二名の中、五名は首尾よく合格し本月三日文部省に於て發表されたり、その氏名次の如し。高浦しづへ子(岐阜)、片桐壽美子(富山)、菅澤鶴子(岡山)、高田はつ子(富山)、長鹽繁子(岡山)。

○萬國家庭敎育會議

萬國家庭敎育會議は、五年前その第一回をリエージに開き、翌年ミランに第二回を開設したりしが、今回は本年八月末を以て白耳義國ブラッセル市に開設

せらるべき博覧會と同時に開會する由にて、我が文部省へも參列を勸誘し來れるが、家庭と教育とに關する事項は勿論、生後二十歳に至るまでの青年期教育に關する身心發育の衛生、家族との關係、情操、性慾、生理方面、授業時間の關係、疾病、飲食物の關係、低能兒性癖保護方法等萬般に亙れるものにして、政府保護の下に、頗る趣味多く且つ有益なる會合たらんことを期せりと。

西洋雜俎

○昆蟲の綺麗好き

人の住居に蟲がわくのは勿論不潔の徵であるが、昆蟲そのものゝ清潔なることは實に感心なものである。怪我をしたものでもなければ、蜂や蟻の汚れて居るのを見た人はなからう。ヘンリー、クークと云ふ人が幾萬の蟻について、晝も夜も色々の場合に觀察をした、而して或は自然に或はわざと清潔に出來ないやうにして置て、天然の中に澤山蟻の市を造らして見たが、只の一疋も不潔な蟻を見付けることが出來なかつた。蟻の身體には、軟かい毛や剛い毛が生へて居て、汚穢いものが引掛り易い譯である、其上絶えず不潔な處や腐敗物の中などを動き廻るのであるが、それでも清潔になつて居る。蜂の種類では木に穴を穿けたり、砂や泥の中に巢を造つたり、卵を產んで孵化する時などは、隨分不潔な物を混ぜたり、運んだりして絶間なく働くが、それでも常に清潔になつて居る。如何に綺麗好きの人でも、斯樣な仕事をして、かうも清潔になつて居ることは到底出來ることでない、然るに此等の動物では少しもそんな汚穢い仕事をして居るやうな痕跡がない。一體彼等の綺麗好きと云ふことは天性でもあるが、特に蟻は色々の清潔法の道具を持て居るのである、卽ち極齒の細かい櫛、ブラッシ、海綿や石鹸のやうなものを身體に具へて居る、而して此等の昆蟲共は自分でお化粧をするばかりでなく、お互にお化粧をする、又寢る前と起きた後で身體を洗ふ。クークは彼等の

共同行水と髮を梳かすことに就いて、實に滑稽な而も頗る學ぶべき所のあることを書いて居る。

○齒の注意

この前獨逸の伯林で萬國齒科醫大會があつた時に、クーチルトと云ふ人の演說が大分注意を引いたが、その大意は略ぼかう云ふことであつた。先づ現今の齒牙衞生に骨折つて居ることは、その根本の問題を捕まへて居らぬ。一體齲齒の出來るのは、齒の石灰變質が不十分であるからのことで、その原因は石灰鹽類を攝取ことの少ないのと、物を嚙む働の足りないに由るのである。吾々の祖先は黃ばんだ硬い齒を持つて居たものであるが、近頃の兒童は白い、加之ならず青味がゝつた齒で、軟かで抵抗力の頗る弱い齒になつて居る。それで食物は、も少し石灰鹽類を含んで居るものを、食ふやうにし、小供等には白い小麥の麵麭でなしに、黑いクレベルを含んで居る麵麭を與へる、それも餘り新しいものを食べさせぬがよい、特に砂糖類は一切與へてはならぬ。

○目に見えぬ有害光線

暫時太陽を凝視て居ると忽ち眼が眩むことは誰も知つて居る所であるが、目に見えぬ光線で紫外光線と云ふのがある、これは眼の爲には頗る有害な光線で彼の雪の時に高山で烈しい眼病に罹ることがある、平地でもきら〳〵輝いて居る雪を數時間も眺めて居れば眼が惡くなる、これが卽ち紫外光線の作用で、エリトロプシー卽ち紅視症などゝ云ふ病氣を起すのである。所で近來照光法が進步して照光はなる程明るくなつたが、これと共に光源の溫度が高くなつてこの紫外線を發する量が多くなつて來て居る。それで絕えず電氣燈で仕事をして居ると、劇しい眼病を起す原因となる、卽ち電氣眼炎と稱せられるものである。その他の洋燈も種々改良されて、明るくなると、段々この有害光線を發する量が增して來る。この紫外線を含む量を、種々の光源體について調べて見るに、蠟燭、平心の石油ランプが最も少量で、普通の瓦斯燈、白熱酒精燈、それから丸心の石油ラン

プ、白熱石油ランプ。次に白熱瓦斯燈、アセチリン白熱燈、普通の電氣燈と段々に増して來て、ホヤ附の大電燈になつては急に多くなり、極細かい仕事をする時に用ひられる、水銀蒸汽ランプなどゝ云ふものに至つては、非常に多量の紫外光線を含んで居る。それで此有害光線を防ぐ爲に、色々の眼鏡も作られたが、青色の硝子も、煙色の硝子も役に立たぬエニキサントース硝子と稱せられる保護眼鏡も、矢張未だ紫外光線を吸收しきれない。この目的を達する爲にシャンツとストックハウゼンの兩氏が作つたオイフオス硝子は、完全に紫外線を吸收する。それで此硝子の眼鏡かホヤを用ゐるでなければ、眼の爲には、蠟燭か普通のランプが先づ最も害が少ない譯である。

大日本婦人衛生會記事

○本會例會

三月五日午後一時半より女子職業學校内に於て例會を開く、二木博士が血の話第二回の講演あり、前回と同じく豫め蝦蟇に依て血液循環の狀況を顯微鏡下に供覽し、會衆の略ぼこれを觀了るや、司會の紹介に依て登壇、先づ氏が曾て師事せられしグルーバー教授が、過般獨逸に於て、人類健康上に及ぼす文明の餘弊に就き悲愴なる一場の講演をなし、吾人の齒牙は軟齒の爲に食物を咀嚼するに堪へず、乳房も亦終には古代の遺物として空しく婦人の胸に痕跡を止むるに過ぎざるに至らむかと痛論せられきと冒頭を置き、吾人の一日も衛生を等閑に附すべからざることより、本題に入りて呼吸と血液循環との關係を論じ、呼吸の際に於ける横隔膜運動、その胸廓と腹部の運動との相互の影響につき略圖を以て説明せられ、腹式深呼吸の如何に健康上のみならず技藝の習熟にも必要なるかを述べ、尚ほ巧妙なる模型に依りて、呼吸と血液循環の關係を生體に於て透見するが如くに目覩せしめ、腹式深呼吸の練習法も親しく模範を示しつゝ傳授されたり、此間一も難解の言な

く、深遠の學理も只興趣に導かれて自ら會得せしめらる、實に先生獨特の講話と謂ふべし。暫時休憩の後引續き講せらるゝ筈なりしも、強いて次回に譲られむことを希望せり、これ一は時刻のやゝ遲かりしと、一は二回共この講演に臨む能はざりし會員の爲に惜みてなり。斯くて閉會の後、別室に於て茶菓を供し、暫時談笑、全く散會せるは四時過なりき。尚ほ當日の出席役員姓名は左の如し。

鳩山春子　濱尾副會長　長谷川仲子
中濱芳子　岡山こし子　松平芳子
三浦敬子　高木錄子　三宅藤子
丹波貞子　岸　澄子　山口貞子
岩下ゆか子　岡田德子　濱田捨子

（以上出席順）

一月新年會の際左の寄附ありき。二月記載漏れに付き茲に揭示す。

金參圓並に蜜柑貳箱　濱尾副會長
金壹圓　鳩山夫人　金壹圓　羽田夫人
金壹圓　長谷川夫人　金壹圓　岡田夫人
金壹圓　高木夫人　金壹圓　高橋夫人
金壹圓　田村夫人　金壹圓　三浦夫人
金壹圓　宮本夫人　金壹圓　三宅夫人

○大日本婦人衞生會收支決算報告書（自明治四十二年三月 至同四十三年二月）

收入

一金五千參百五拾貳圓八拾壹錢九厘

內譯

金貳千八百拾八圓九拾貳錢四厘　前年度ヨリ越高
金貳千七拾壹圓貳拾五錢　會費
金參百貳拾七圓　寄付金、懇親會費、廣告料
金百參拾四圓四拾七錢　預ケ金利子
金壹圓拾七錢五厘　雜收入

支出

一金貳千五百九圓四拾壹錢壹厘

內譯

金五百七拾七圓九拾五錢　報酬及雜給
金千百參拾壹圓九拾壹錢壹厘　圖書及印刷費
金八圓九拾四錢　筆紙墨文具
金四圓五拾壹錢　消耗品
金九拾七圓參拾四錢五厘　通信運搬費
金貳百六拾九圓五拾九錢　集會費
金百拾貳圓六拾六錢五厘　雜費

金參百圓　借家料
金六圓五拾錢　旅費

收支差引殘

一金貳千八百四拾參圓四拾錢八厘

内譯

金貳千七百圓　三井銀行預金
金六圓八拾八錢　東京貯蓄銀行京橋支店同上
金五拾貳圓拾錢　振替貯金
金五拾圓　借家敷金
金參拾四圓四拾貳錢八厘　手元有高

以上

通常會員畔上ひさ子姉みまかられぬ
本會はかしこみてこゝに弔意を表す

〇本會入會者

〇事務所申込
●吳市和庄町八丁目　通常會員　植田あさよ子

〇岡田幹事紹介
●本鄕區駒込條中一六四　特別會員　間野俊子

〇横井忠國氏紹介
●臺南市府東巷街守備隊將校官舎　通常會員　坂田順子

〇箕輪氏紹介
●群馬縣桐生町隔離病舎　通常會員　内海きよ子

〇再入
●赤坂區青山南町六ノ五十一　通常會員　北原壽子

〇莊司氏紹介
●沖繩縣那覇　通常會員　立井馨子
●本鄕區西片町九　通常會員　山尾うら子
●小石川區林町九八　特別會員　福間ふみ子

〇宇都宮支會入會者

〇中山支會長紹介
●　特別會員　松浦うめ子
●　特別會員　牧山その子

〇轉居

●小石川區諏訪町五十五へ　山梨識子
●芝公園六號ノ四へ　藤井すゞ子
●府下荏原郡入新井村山王二五七八へ　小高良造
●大阪市西區立賣堀阿波橋高橋方へ　阿部文五郎
●吳市川原石一〇四五ノ一へ　大舘きみ子
●本鄕區臺町五三へ　田原雨子

〇訂正

前號本會入會者中横井忠國氏紹介竹中梅子ハ竹下梅子ノ誤ニ付訂正ス

ドクトル富士川游先生序　千日亮先生安井洋先生共著

輓近育兒法

全一册

誕生より學齡期前まで

●編末に高島平三郎先生の兒童心理學に關
●する著述の二節を關錄として掲載しあり

幼兒の成長するに當り其心身は如何に發達すべきか此等の發達を妨ぐるものは如何なるものであるか保育上最も注意を要すべきことは何であるか學齡期以前に於ける純潔無垢なる神の如き幼兒の天性は如何にして之を養護發達せしむべきか世の多くの親達は此等の幼兒を育て損こねて居ることはなきか家庭教養と幼稚園教育との如何兒童精神作用の健否等苟くも多少此等の事に心を用ひらるゝ世の父母たる者未來の父母たる者幼兒教育者及女子教育家の如き先づ以て本書を繙くべきである

精巧畫插入
菊判洋裝美綴
紙數三百五十頁
正價壹圓貳拾錢
郵税八錢

楠田謙藏先生述

▲全一册▼

婦人之衛生

（插圖十二個、總ふりがな附）正價四拾錢郵税四錢

此書は婦人の月經時、婚嫁時、妊娠時、分娩時、産褥時並に其固有の疾病時に當りて注意すべき事柄を漏すことなく記述し之に附するに小兒の保育上の注意疾病時の注意を以てしたるものにして婦人は此記述に準じて自愛するときは庶幾くは其健康を保持し且愛兒を適當に保育することを得ん此書に類したる名を負せて世に出すところの書册に比すれば其所述に於て其行文に於て其優美にして卑猥ならざる點に於て少しく撰を異にするところあるを信す

醫學博士志賀潔先生序
醫事新聞社長藤根常吉先生校閲　赤井稻藏先生著

胃腸養生法

▲全一册▼正價金六拾錢郵税金六錢

大阪高等醫學校教諭田中祐吉先生著

通俗病理講話

◀第一卷▶

正價金四拾五錢郵税八錢

發行所　東京市本郷區龍岡町
振替貯金口座東京四一八一番
電話下谷一六七二番
吐鳳堂書店

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のものゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

● 丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

● 島田髷 金三十錢より金壹圓五十錢迄

● 銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

● 送料 各八錢

● 諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地 田中金三郎

【振替貯金口座一八一八八番】

● 小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹

本郷三丁目 兼康

淺草駒形 百助

淺草駒形 紅勘

神田區須田町 三井屋

日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助

日本橋區田所町廿一 山三商店

同 横山町一丁目 安井治太郎

同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎

同 横山町一丁目 天野源七

同 馬喰町三丁目 阿部錠

同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店

同 横山町二丁目 江川小間物店

同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

タカヂアスターゼ

●消化不良に就て熊本醫學專門學校長**谷口博士**は曰く「澱粉不消化の徴候たる胃の膨大疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べし」と、又本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く「予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ず」と、

信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すればタカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。

タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらるゝ孰れも眞正品なり

●**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徴するに坊間に販かるゝ多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**は他**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの説明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●世に幾多の摸造品及類似品あり**高峰博士發見の**タカヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す



●**營養增進**の目的を以て虛弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者之を服用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰く「タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とす」と、又在京の**栗本博士**は曰く「今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認す」と、**柴山博士**にも亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたることを公示せられたり

●**藥効均等**論は輓近醫學者間に唱道せらるゝ、所なり、內務省橫濱衛生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、「タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せり」とタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なり、これパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一-〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠-二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に聲明す

私立大日本婦人衞生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市寄居町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衞生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼れて一般慈善事業を爲すにあり ●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢 ●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す ●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす ●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし ●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す ●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし ●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす ●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし ●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改選庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し既納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を著用する事

第十一條 特に支會則に揭げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公選し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の選擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第二條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公選シ評議員幹事ハ會長之ヲ選任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月一回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改選庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル時ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ



○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メツキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黑塗箱入送費九錢）　六拾錢（桐箱入送費六錢）



第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御拂相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　荘司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十三年三月十六日印刷
明治四十三年三月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百四十四號
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍